

第Ⅲ部 応用分析編

第Ⅲ部では、標準化調査の際に、検査への回答と一緒に実施してもらったアンケートの部分を使って分析した結果を報告する。

第11章 高等学校における学科と職業志向性、基礎的志向性の関連の検討

11-1 本章の目的

今回の標準化調査では、高等学校に関して7つの学科の区分を考え、データを収集した。調査の時点で在籍する高等学校で何を学んでいるか、あるいはそれ以前にどんな高等学校を選んだかには、生徒の職業興味や日常生活での基礎的な志向性が反映されていることが考えられる。

そこで、本章では、高等学校の学科と職業レディネス・テストの標準化調査で実施したA検査、B検査、C検査に対する回答結果との関連を検討したい。なお、結果の記述については、最初に学科ごとに回答結果の特徴を列挙し、続いて、各学科の回答結果を学科で学ぶ学習の内容や学科の特徴との関連から検討するという方法をとった。

11-2 分析対象

(1) サンプルングと分析の対象

高等学校のサンプルングの方法については、「第3章 標準化調査の概要」において述べた通り、全国を6地域ブロックに分け、学校のタイプを7群に分け、学校数・生徒数の分布を作った。その上で、全国で8,000サンプルを目標として、ブロック別、学校タイプ別に学校数を決定した。ただ、実際に学校への依頼を行ったところ、当初の予定よりも応募数が多くなった。学科別に人数を調整し、データが不足した学科については再度追加調査を行って最終的には17,104名のデータを収集した。学科別内訳は図表11-1の通りである。本章ではこのデータを使って分析を行う。

図表 11-1 学科別男女別構成(高校生) (人)

	計	男	女
計	17,104	8,409	8,695
普通科進学率70%未満	7,668	3,723	3,945
普通科進学率70%以上	4,441	2,210	2,231
農業+水産	786	429	357
工業+情報	1,818	1,566	252
商業	1,032	236	796
家庭+看護+福祉	778	8	770
その他+総合	581	237	344

11-3 分析方法と結果

11-3-1 学科別に見た職業興味、職務遂行の自信、基礎的志向性の特徴

A 検査では、54 項目について「やりたい」を 2 点、「どちらともいえない」を 1 点、「やりたくない」を 0 点として採点した。A 検査の 6 領域にはそれぞれ 9 項目が含まれるので最大値は 18 点、最小値は 0 点となる。B 検査では 64 項目について「あてはまる」を 1 点、「あてはまらない」を 0 点として採点した。D 志向と P 志向には各 24 項目、T 志向には 16 項目が含まれるので、D 志向、P 志向は 0～24 点、T 志向は 0～16 点の範囲をとる。C 検査では、「自信がある」を 2 点、「どちらともいえない」を 1 点、「自信がない」を 0 点として採点した。得点の範囲は A 検査と同様である。その上で、7 つの学科別に、A 検査、B 検査、C 検査の各尺度の平均値を算出した。そして、各検査における下位尺度（A 検査、C 検査ではホルランドの 6 領域、B 検査では DPT）での平均値の高さを検討した。

以下、学科別に各検査の平均値の特徴を検討した。学科別の A 検査と C 検査の平均値を図表 11-1～図表 11-7 にまとめた。職業興味や自信については、ホルランドの 6 領域のうち、最も得点が高い領域がその学科の特徴を象徴するという考え方をとり、「～タイプ」という表記を使った。B 検査の結果については、学科別では各志向性の平均値（図表 11-8）を参照した上で、A 検査、C 検査との関連を記述した。なお、B 検査については、11-3-2 において、すべての学科の平均値を図表 11-8 にまとめた上で、学科間の相互の関連を見ながら検討する。

（1）普通科進学率 70%未満

①興味（A 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、S タイプといえる。ただし、A の領域の数値も高いので、S A タイプと捉えることが妥当である。

イ：興味が強i職業領域は、S 領域、A 領域、E 領域の順になる。

ウ：興味分化度は、3.03 となる。^{注 11-1}

エ：最も数値が高かった S 領域の対極にある R 領域の数値は 5.53 であり、比較的高いといえる。S 領域に隣接する A 領域および E 領域の数値は 6.28 および 5.61 であり、高い数値を示している。

②自信（C 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、S タイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、S 領域、R 領域、C 領域の順になる。

^{注 11-1} 本章における A 検査の興味分化度、C 検査の自信分化度は最も得点の高い領域から最も得点の低い領域の差として定義した。なお、第 9 章では分化度をパーセンタイル値を使って算出したが、本章では平均値の差として求めた。

ウ：自信分化度は、3.54 となる。

エ：最も数値が高かった S 領域の対極にある R 領域の数値は 5.34 であり、比較的高いといえる。S 領域に隣接する A 領域および E 領域の数値は 4.97 および 4.39 であり、A 検査に比すと数値が下がっている。

③興味（A 検査）と自信（C 検査）の差

ア：S 領域の数値差は、0.05 であり、ほとんど差を認められない。A 領域および E 領域には、1.31 および 1.22 の有意差が認められる。

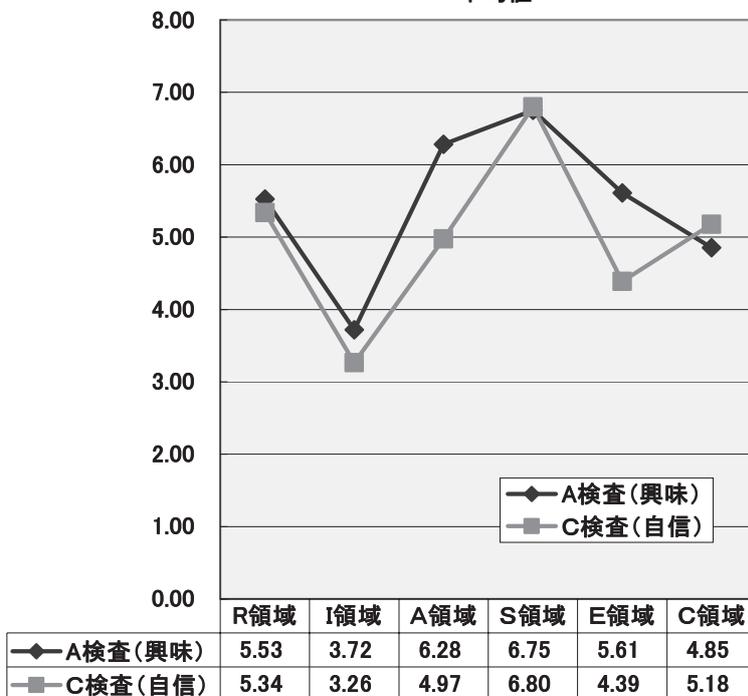
④基礎的志向性（B 検査）

ア：D 志向の平均値は 9.90、P 志向は 14.41、T 志向は 7.02 となった。D 志向、T 志向は 24 項目、T 志向は 16 項目なので、平均値をそのまま比較することができないが、T 志向を 1.5 倍すると 10.53 で、3 つの中では P 志向が高く なっている。

イ：興味（A 検査）では S タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係に合致している。

ウ：自信（C 検査）では S タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係に合致している。

図表11-1 普通科進学率70%未満(A検査、C検査)の平均値



(2) 普通科進学率 70%以上

①興味（A 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、S タイプといえる。ただし、E の領域および A の領域の数値も高いので、S E A タイプと捉えることが妥当である。

イ：興味が強い職業領域は、S 領域、E 領域、A 領域の順になる。

ウ：興味分化度は、1.77 となる。

エ：最も数値が高かった S 領域の対極にある R 領域の数値は 4.80 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。S 領域に隣接する A 領域および E 領域の数値は 6.30 および

6.36 であり、S領域の数値に接近している。

②自信（C検査）

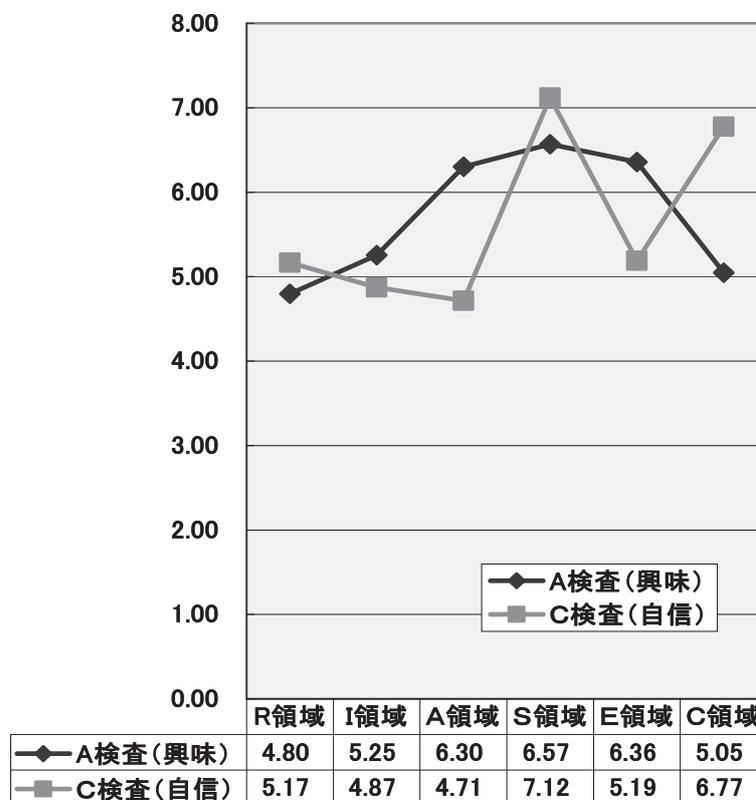
ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。ただし、Cの領域の数値も高いので、SCタイプと捉えることが妥当である。

イ：自信が強い職業領域は、S領域、C領域、E領域の順になる。

ウ：自信分化度は、2.41 となる。

エ：最も数値が高かったS領域の対極にあるR領域の数値は 5.12 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は 4.71 および 5.19 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

図表11-2 普通科進学率70%以上
(A検査、C検査の平均値)



③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：S領域の数値差は、0.55 であり自信（C検査）の数値が興味（A検査）の数値を上回っている。A領域、E領域およびC領域には、1.59、1.17 および 1.73 の有意差が認められる。特にC領域においては、自信（C検査）が興味（A検査）の数値を大きく上回っている点が、他の領域、他の学科に比して特徴的である。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は 11.63、P志向は 14.42、T志向は 7.14 である。T志向の項目数の違いを考慮してもP志向が最も高い。

イ：興味（A検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

ウ：自信（C検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

(3) 農業+水産科

①興味 (A検査)

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Rタイプといえる。ただし、Aの領域およびEの領域の数値も高いので、R A Sタイプと捉えることが妥当である。

イ：興味強い職業領域は、R領域、S領域、A領域の順になる。

ウ：興味分化度は、2.18となる。

エ：最も数値が高かったR領域の対極にあるS領域

の数値は6.05であり、2位の数値である。R領域に隣接するI領域およびC領域の数値は4.18および4.56であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

②自信 (C検査)

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。ただし、Rの領域の数値も高いので、S Rタイプと捉えることが妥当である。

イ：自信強い職業領域は、S領域、R領域、C領域の順になる。

ウ：自信分化度は、2.53となる。

エ：最も数値が高かったS領域の対極にあるR領域の数値は6.07であり、2位の数値である。

S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は4.48および4.19であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

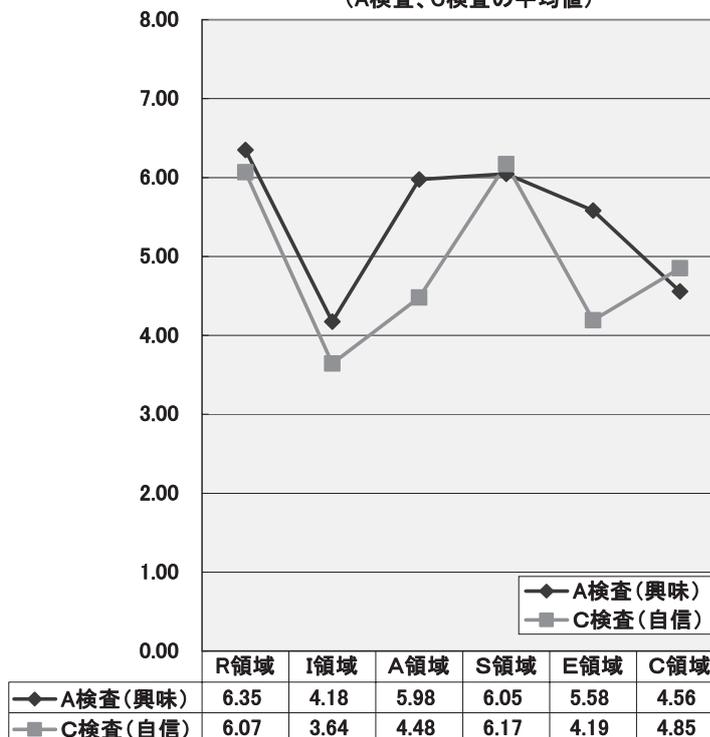
③興味 (A検査) と自信 (C検査) の差

ア：興味 (A検査) と自信 (C検査) の最も数値が高かった領域が、興味ではR領域であり、自信ではR領域とS領域がほとんど差のない数値を示している。興味の型はRタイプ、自信の型はR Sタイプといえる。R領域、S領域の興味と自信の差は、それぞれ、0.28および0.12でほとんど差が見られない。A領域およびE領域には、1.50および1.39の有意差が認められる。

④基礎的志向性 (B検査)

ア：D志向の平均値は9.12、P志向は13.72、T志向は7.3である。T志向の項目数を考慮

図表11-3 農業+水産科 (A検査、C検査の平均値)



しても P 志向がもっとも高い。

イ：興味（A 検査）では R タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係には合致していない。

ウ：自信（C 検査）では S タイプであり、基礎的志向性（B 検査）では P であり、統計結果による相関関係に合致している。

（4）工業+情報科

①興味（A 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、R タイプといえる。他の領域の数値に比較して、R 領域の数値が明確に高く、典型的な R タイプといえる。

イ：興味が強い職業領域は、R 領域、A 領域、E 領域の順になる。

ウ：興味分化度は、3.60 となる。

エ：最も数値が高かった R

領域の対極にある S 領域の数値は 5.03 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。R 領域に隣接する I 領域および C 領域の数値は 5.01 および 4.87 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

②自信（C 検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、R タイプといえる。他の領域の数値に比較して、R 領域の数値が明確に高く、典型的な R タイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、R 領域、C 領域、S 領域の順になる。

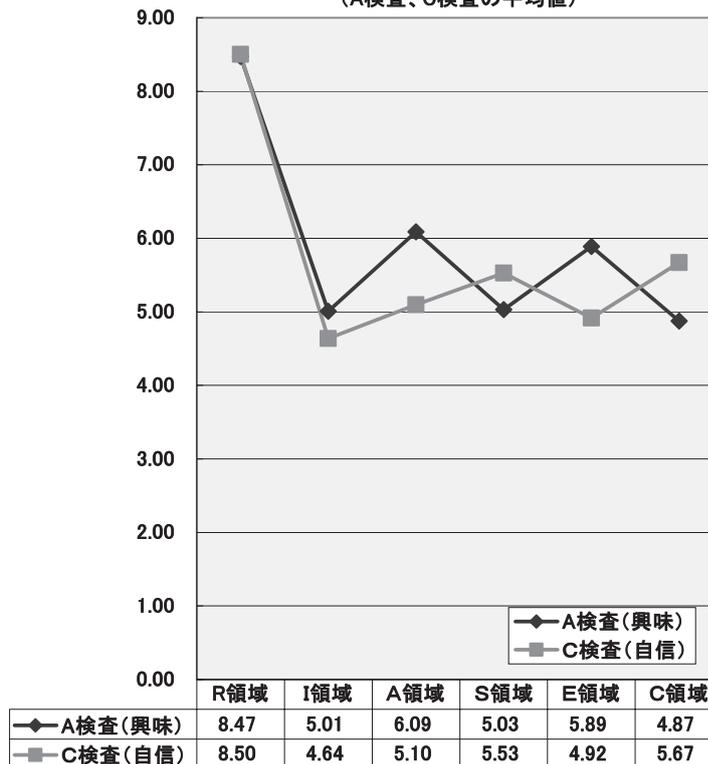
ウ：自信分化度は、3.87 となる。

エ：最も数値が高かった R 領域の対極にある S 領域の数値は 5.53 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。R 領域に隣接する I 領域および C 領域の数値は 4.64 および 5.67 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A 検査）と自信（C 検査）の差

ア：R 領域の数値差は、0.03 でありほとんど差を認められない。A 領域および E 領域には、

図表11-4 工業+情報科
(A検査、C検査の平均値)



0.99 および 0.97 の差が認められる。S領域およびC領域で、自信（C検査）の数値が興味（A検査）の数値をそれぞれ、0.99 および 0.97 上回っている。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向は 10.20、P志向は 13.38、T志向は 8.15 である。T志向の項目数を考慮しても P志向が最も高い。

イ：興味（A検査）ではRタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Rと相関関係にあるものはTとなっている。ただし、P志向の平均値（P値）とT志向の平均値（T値）の差は他の学科の示すP値T値の差に比し最も小さくなっている。

ウ：自信（C検査）ではRタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Rと相関関係にあるものはTとなっている。ただし、P値とT値の差は 5.23 であり、他の学科の示すP値T値の差に比し最も小さくなっている。

（5）商業科

①興味（A検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Cタイプといえる。A領域およびS領域の数値も高く、CSAタイプと捉えるのが妥当といえる。

イ：興味が強い職業領域は、C領域、S領域、A領域の順になる。

ウ：興味分化度は、4.92 となる。

エ：最も数値が高かったC

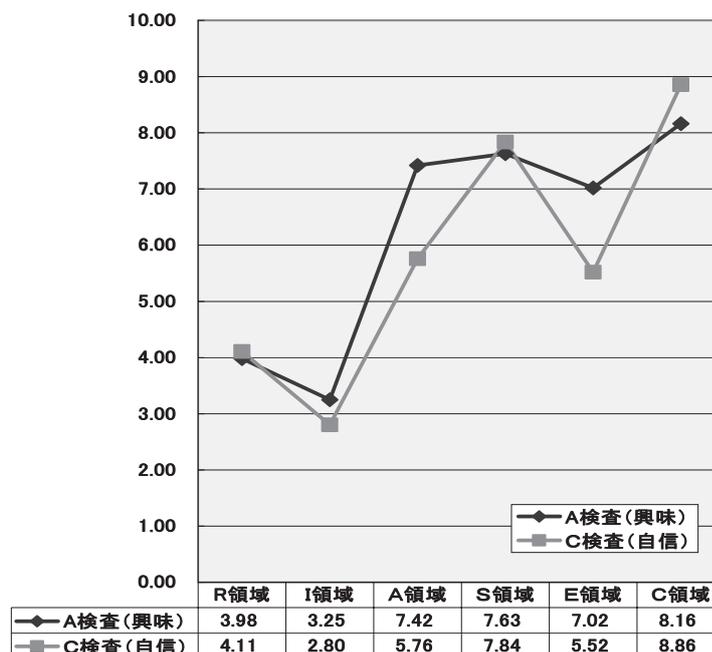
領域の対極にあるA領域の数値は 7.42 であり、3位の数値である。C領域に隣接するR領域およびE領域の数値は 3.98 および 7.01 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。特にR領域の数値との差は著しい。

②自信（C検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Cタイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、C領域、S領域、A領域の順になる。

図表11-5 商業科(A検査、C検査の平均値)



ウ：自信分化度は、6.06 となる。

エ：最も数値が高かったC領域の対極にあるA領域の数値は 5.76 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。C領域に隣接するR領域およびE領域の数値は 4.11 および 5.52 であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：C領域の数値差は、0.69 であり、自信の数値が上回っている。タイプの特徴を表す領域で自信の数値が上回っていることは、他の学科に比して特徴的である。A領域およびE領域には、1.66 および 1.50 の有意差が認められる。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は 11.59、P志向は 15.02、T志向は 6.9 であった。T志向の項目数を考慮してもP志向がもっとも高い。

イ：興味（A検査）ではCタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPである。統計結果からは、C値との相関関係にあるものは認められていない。

ウ：自信（C検査）ではCタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Cと相関関係にあるものはDとなっている。ただし、D志向の平均値（D値）は 11.59 であり、他の学科の示すD値に比し、普通科進学率 70%以上のD値である 11.63 の次に高い値を示している。

（6）家政+看護+福祉科

①興味（A検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。A領域およびの数値も高く、SAタイプと捉えるのが妥当といえる。

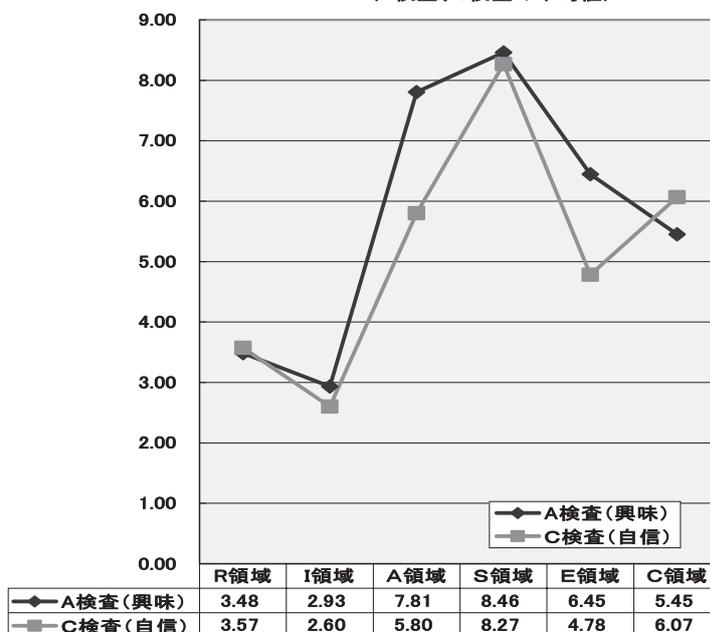
イ：興味が強い職業領域は、S領域、A領域、E領域の順になる。

ウ：興味分化度は、5.53 となる。

エ：最も数値が高かったS領域

の対極にあるR領域の数値は 3.48 であり、著しく低い数値を示す。S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は 7.81 および 6.45 であり、比較的高い数値を示している。タイプの特徴を示す領域の両隣の数値が高く、対極の領域の数値が低く、興味の分化を

図表11-6 家政+看護+福祉科 (A検査、C検査の平均値)



明確に示している。

②自信（C検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Sタイプといえる。

イ：自信が強い職業領域は、S領域、C領域、A領域の順になる。

ウ：自信分化度は、5.67となる。

エ：最も数値が高かったS領域の対極にあるR領域の数値は3.57であり、著しく低い数値を示す。S領域に隣接するA領域およびE領域の数値は5.80および4.78であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：S領域の数値差は、0.19であり、興味と自信の数値にほとんど差は認められない。A領域およびE領域には、2.01および1.66の有意差が認められる。

④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は11.25、P志向は15.52、T志向は7.88となった。T志向の項目数を考慮してもP志向がもっとも高い。

イ：興味（A検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

ウ：自信（C検査）ではSタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係に合致している。

（7）その他＋総合科

①興味（A検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Aタイプといえる。

イ：興味が強い職業領域は、A領域、E領域、S領域の順になる。

ウ：興味分化度は、3.84となる。

エ：最も数値が高かったA領域の対極にあるC領域の数値は5.47であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。A領域に隣接するI領域およびS領域の数値は3.31および5.98であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

②自信（C検査）

ア：最も数値が高かった領域を基準にタイプを考えると、Cタイプといえる。S領域の数値も6.37と接近しており、CSタイプと捉えるのが妥当といえる。

イ：自信が強い職業領域は、C領域、S領域、A領域の順になる。

ウ：自信分化度は、3.45となる。

エ：最も数値が高かったC領域の対極にあるA領域の数値は5.64であり、3位の数値を示す。C領域に隣接するR領域およびE領域の数値は4.84および4.87であり、プロフィール上からは低い数値と見て取れる。

③興味（A検査）と自信（C検査）の差

ア：興味（A検査）と自信（C検査）の最も数値が高かった領域が、興味ではA領域であり、自信ではC領域とS領域がほとんど差のない数値を示している。興味の型はAタイプ、自信の型はCSタイプといえる。C領域、S領域の興味と自信の差は、それぞれ、0.91および0.39で若干の差がある。A領域およびE領域には、1.52および1.41の有意差が認められる。興味（A検査）と自信（C検査）の結果でタイプの異なる学科として、農業+水産が挙げられるが、プロフィール上の特徴としては異なる特徴を示していると思われる。

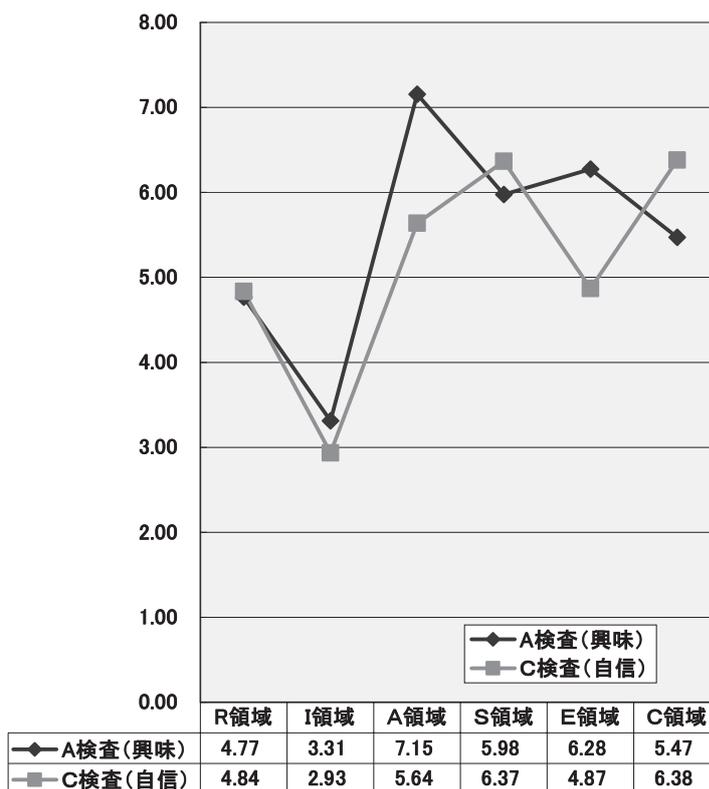
④基礎的志向性（B検査）

ア：D志向の平均値は、10.63、P志向は14.15、T志向は7.47となった。T志向の項目数を考慮してもP志向がもっとも高い。

イ：興味（A検査）ではAタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPである。統計結果からは、A値との相関関係にあるものは認められていない。

ウ：自信（C検査）ではCタイプであり、基礎的志向性（B検査）ではPであり、統計結果による相関関係には合致していない。Cと相関関係にあるものはDとなっている。しかも、D値は10.63であり、他の学科の示すD値に比し特段高い数値を示しているわけでもなく、P値とD値の差も、他の学科の示す差に比して小さくもない。

図表11-7 その他+総合科
(A検査、C検査の平均値)

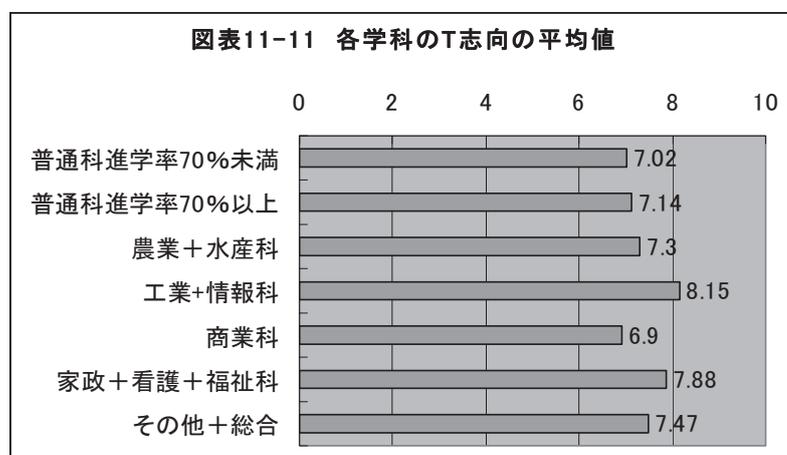
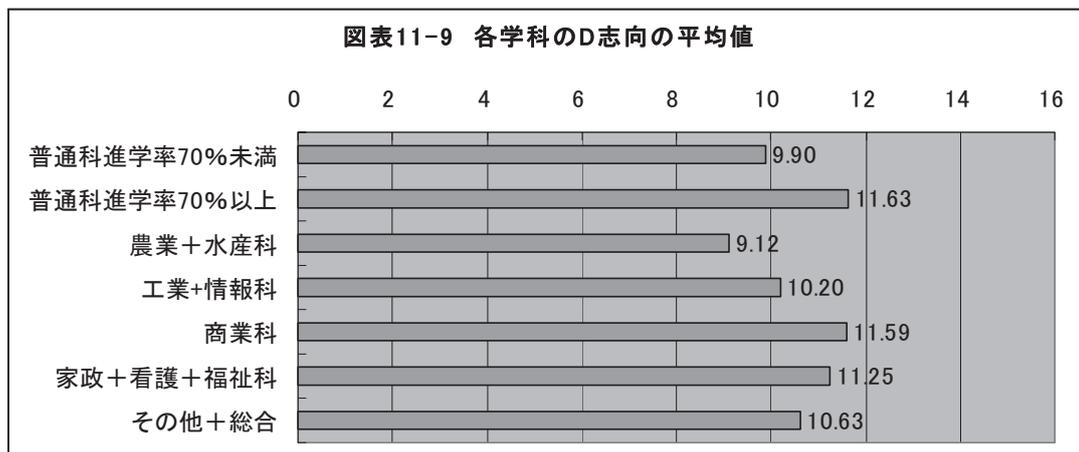


11-3-2 基礎的志向性の学科間比較

図表 11-8 に各学科の基礎的志向性の平均値を示した。B検査については、前述の通り、T志向の項目数が違うため、平均値の大きさを単純に比較することはできないが、どの学科で

も P の対人志向がもっとも高いという結果となった。高校生の場合、日常生活における基礎的志向性という点では、情報や物よりは人に関連する志向性が相対的に高いようである。ただし、各志向性の相対的な得点の高さには学科によって違いが見られた。

図表 11-9 から図表 11-11 は、D 志向、P 志向、T 志向別に学科の平均値をグラフにしたものである。



図表11-8 各学科の基礎的志向性の平均値

学科	D志向	P志向	T志向
普通科進学率70%未満	9.90	14.41	7.02
普通科進学率70%以上	11.63	14.42	7.14
農業+水産科	9.12	13.72	7.3
工業+情報科	10.20	13.38	8.15
商業科	11.59	15.02	6.9
家政+看護+福祉科	11.25	15.52	7.88
その他+総合	10.63	14.15	7.47

注：D志向、P志向は各24項目、T志向は16項目の合計の平均値である。

D志向では、普通科進学率70%以上がもっとも高く、続いて、商業科、家政+看護+福祉科が11点台である。農業+水産科と普通科進学率70%未満は9点台で低めである。D志向は情報への志向性と関連するので、データを読んだり、加工したり、計算をするといったデスクワーク的な活動と関連が高い。普通科進学率70%以上の高校や商業科でこの志向性が高いのは情報を扱う活動が学校の授業内容を含めて日常生活で多いことを反映していると思われる。

P志向では、15点台が2つあり、家政+看護+福祉科がもっとも高く、続いて、商業科が高い。P志向は対人的な活動への志向であるが、家政+看護+福祉科や商業科で高いことは、これらの学科は、医療、福祉関係や流通、サービス関係の職業と関連するので、日常生活においても対人的な関わりへの志向の高さが表れるようである。他方、工業+情報科と農業+水産科は13点台で低くなっている。ホルランドの6領域間の関連では、人との関わりを好む社会的領域(S領域)は、機械や手工技能系の活動を好む現実的領域(R領域)と関連が低いといわれているが、日常生活の志向性に関しておきかえてみるとP志向とT志向の関係がそれに相当するといえる。ホルランドの6領域でR領域に関心の高い工業+情報科と農業+水産科でP志向が低いことは職業興味と一貫した傾向である。

T志向をみてみると、工業+情報科が8点台でもっとも高く、家政+看護+福祉科が続く。商業科は6点台でもっとも低くなっている。商業科はP志向が高かったのも、対人的な志向性と対物的な志向性は相反するという見解と一致している。家政+看護+福祉科はP志向も高く、この見解とは一致しない。なお、家政+看護+福祉科はD志向も高く、3つの志向性のいずれも高めであることがわかる。

11-3-3 回答結果と学科別の特徴との関連

(1) 普通科と専門学科の比較

普通科進学率70%未満の学校における興味分化度は3.03、自信分化度は3.54であり、普通科進学率70%以上の学校における興味分化度は1.77、自信分化度は2.41である。平均すると興味分化度は2.40、自信分化度は2.98となる。同じように専門学科の5学科の興味分

化度と自信分化度をそれぞれ平均すると、興味分化度は 4.01、自信分化度は 4.32 となる。

この数字を比較すると、明らかに、専門学科の生徒の興味分化度および自信分化度が高いことがわかる。これは、日常の学びの内容が、職業に結びつく科目を多く学んでいるかどうかに影響されると推測される。専門学科は、高校入学のときからの進路目標が明確である生徒が多く、かつ、職業に結びつく科目を日常の学びの中で積み上げている結果、進路発達が早く、明確に興味や自信が分化したものと考えられる。

(2) 農業＋水産学科

農業＋水産学科の職業興味の平均値を見ると、R 領域への関心が高い。R 領域に関連する職業領域をみると、動植物管理、工学関係、熟練技能、生産技術関係、機械管理、機械、装置運転である。このうちの動植物管理が、農業＋水産科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

(3) 工業＋情報科

工業＋情報科の職業興味も、農業＋水産学科と同じく、R 領域が高い。R 領域に関連する職業領域をみると、動植物管理、工学関係、熟練技能、生産技術関係、機械管理、機械、装置運転である。このうちの工学関係、熟練技能、生産技術関係、機械管理、機械、装置運転が、工業＋情報科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

また、領域の質問項目である「部品を組み立てて機械を作る」や「自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する」等は、日常の学びに直結した質問項目であり、学習経験が興味や自信に反映していることがわかる。

(4) 商業科

商業科生徒の職業興味の平均値では C 領域が高い。C 領域に関連する職業領域をみると、経理事務関係、警備巡視、一般事務、編集・校正関係、法務関係である。このうちの経理事務関係、一般事務、編集が、商業の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

特に、商業学科では、C 領域に関して、興味より自信の値が高くなっていることも特徴である。これは、「文字や数字を、コンピューターに入力する」、「ワープロやパソコンを使って、書類などを清書する」、「帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする」をはじめとして、領域の 9 つの質問項目すべてが、日常の学習活動の中で体験しているものであり、学習経験の裏付けが自信を高めていると考えられる。

また、A 領域、S 領域、E 領域も高い。それぞれ A 領域のデザイン、S 領域の販売、E 領域の経営管理関係、営業、広報・宣伝関係が、商業科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

(5) 家政+看護+福祉科

家政+看護+福祉科の生徒の職業興味ではS領域が高い。さらにその数値は、他の学科に比べ最も高い。S領域に関連する職業領域をみると、社会福祉、教育、医療、保険、販売、対個人サービスである。このうちの社会福祉、教育、医療、保険が、家政+看護+福祉科の進路先となる職業領域に合致していると考えられる。

また、領域の質問項目である「保育園で乳幼児の世話をしたり、一緒に遊んだりする」「患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする」「家庭を訪問して、お年寄りや身体の不自由な人の世話をする」等は、日常の学びに直結した質問項目であり、学習経験が興味や自信に反映していることがわかる。

(6) その他+総合科

その他+総合科の生徒の職業興味はA領域が高い。同時にE領域の興味も高い。総合学科は、多様な選択科目の中から、自らの興味関心や将来の職業実現を目指して、自主的に科目選択をし、学びを積み上げていく学科である。自分の人生をデザインし、マネジメントしながら、何を学ぶかを日々、迫られている学科であるともいえる。そうした日常の学びの体験が、興味に反映していると考えられる。

11-4 まとめ

本章では、学科別に職業レディネス・テストで測定された職業興味、基礎的志向性、職務遂行の自信度の特徴を検討した。

まず、普通科と専門学科の比較であるが、普通科と専門学科では、専門学科の方が好きな領域や嫌いな領域が明確に分かれ、また、得意な領域、不得意な領域の認識も高いことがわかった。専門学科は卒業後の進路が明確であり、卒業後につく職業に直結するような科目の学習が多いことから、職業への意識や準備度が高まることが推察される。また、高等学校の進学の際に、専門学科を選択した時点で、生徒も自らの興味を検討していることも考えられよう。

次に、専門学科の内容と生徒が興味や自信をもっている職業興味等の関連であるが、この2つの関連は職業興味の特徴、また、その領域に関連する職業からみて納得のいく結果となった。すなわち、農業、水産、工業、情報系では手工技能、生産活動、機械の操作等と関わりの強いR領域が好まれること、商業科では事務系の職務と関連するC領域が高いこと、家政、看護、福祉では人との関わりの濃いS領域への興味が高いこと、その他、総合では創造的や自主性が求められるA領域やE領域への関心が高い。その学科を選び、そこで学習している生徒たちは、自分の興味や将来の仕事に合致した内容の学科を選んで進学していることが確認された。基礎的志向性に関しても、学科の特徴を反映した結果が見出された。

「職業レディネス・テスト」では、職務内容を素材として、興味や関心の方向を測るものであるが、測定された生徒の興味が、その生徒の所属する学科の特徴とよく一致するという事実の確認は、この検査で測定される内容の妥当性を裏付ける結果としても解釈することができよう。

第12章 好きな科目、嫌いな科目と職業興味との関連の検討

12-1 本章の目的

中学校、高等学校では様々な学習をするが、どんな科目が好きなのか、得意なのか、反対にどんな科目が嫌いなのか、苦手なのかということは、その生徒の興味や能力という適性の一面と関連するのではないだろうか。そして、好きな科目、得意な科目を通して、生徒は将来の進路を考えるきっかけを得ることもあるだろうし、教員は生徒の進学や進路を検討する材料とすることもあろう。

そこで、本章では、学校で学ぶ様々な科目の好き嫌いと職業レディネス・テストの結果から得られた生徒の職業興味との関連を検討する。最初に中学校、高等学校での科目の好き嫌いを集計し、全体の傾向をつかむ。その後、職業興味の6領域のタイプ別に、そのタイプであることがどんな教科への興味と関連するののかについて検討したい。

12-2 分析対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では中学生と高校生の全体のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力したのは、全国38校の中学1年～3年生および62校の高等学校の1年生～3年生である。

人数の内訳は以下の通り。中学生計10,966名（1年男子1,905名、1年女子1,816名、2年男子1,825名、2年女子1,791名、3年男子1,866名、3年女子1,763名）。高校生計17,104名（1年男子3,244名、1年女子3,175名、2年男子3,185名、2年女子3,399名、3年男子1,980名、3年女子1,979名）。

12-3 調査方法と結果

<質問項目>

本章でとりあげた調査項目は、問題用紙の最後にアンケートとして用意されている。内容は以下の通りである。

①アンケートの質問 「学校で勉強している科目の中で、あなたの好きな科目ときらいな科目を教えてください。回答欄に書かれている科目のうち、好きな科目に○、きれいな科目に×をつけてください。いくつでもよいです。回答欄になれば（ ）内に書き込んでください。」

②科目の選択肢 「国語、古典、世界史、日本史、地理、政治・経済、現代社会、数学、理

科、物理、化学、生物、地学、英語、音楽、美術、工芸、書道、保健・体育、技術・家庭、情報」

12-3-1 好きな科目、嫌いな科目の素集計

最初に好きな科目、嫌いな科目の素集計を行った。科目名は任意の科目を表示し選択させている。特に中学生にはなじみがない科目もあるため、ここではある科目に対する好き嫌いの印象がわかる。

中学校、高等学校全体では、保健・体育や技術・家庭が好きだと答えた生徒が多く、実技・実習系の科目が好まれることがわかった。また、男女間で好きな科目・嫌いな科目の違いがはっきりしていることがわかった。

(1) 中学校、高校別にみた好きな科目

中学生の好きな科目、嫌いな科目の素集計の結果を図表 12-1 に示す。また、高校生の好きな科目、嫌いな科目の素集計の結果を図表 12-2 に示す。表では、好き、嫌いそれぞれ頻度が高い5科目に網掛けをした。まず、中学校、高等学校全体で好きな科目の上位5科目を見てみる。中学校では保健・体育、音楽、技術・家庭、美術、理科の順である。高等学校では保健・体育、音楽、技術・家庭、美術、国語の順である。嫌いな科目の上位5科目は、中学校では地理、政治経済、古典、書道、数学の順で、高等学校では古典、数学、物理、政治経済、英語の順である。

中学生の好きな科目嫌いな科目は、当然、中学生の知っている教科に関わる科目名に回答が集中している。国語、数学、理科、英語、保健・体育、音楽、美術、技術・家庭は中学校の教科とほぼ同一の名称なためほとんどの生徒が好き嫌いをはっきり示している。その他の科目名については、中学校の授業の連想で回答していると考えられる。

図表12-1 中学生の科目の好き嫌い(それぞれ上位3位に網掛け)

科目	全体(n=10,966)				男子(n=5,596)				女子(n=5,370)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	4259	38.8	4699	42.9	1732	31.0	2771	49.5	2527	47.1	1928	35.9
古典	1471	13.4	5349	48.8	669	12.0	2878	51.4	802	14.9	2471	46.0
世界史	2822	25.7	4458	40.7	1787	31.9	2031	36.3	1035	19.3	2427	45.2
日本史	3870	35.3	4102	37.4	2386	42.6	1797	32.1	1484	27.6	2305	42.9
地理	2899	26.4	5712	52.1	1845	33.0	2485	44.4	1054	19.6	3227	60.1
政治・経済	1194	10.9	5659	51.6	806	14.4	2747	49.1	388	7.2	2912	54.2
現代社会	1841	16.8	4716	43.0	1137	20.3	2308	41.2	704	13.1	2408	44.8
数学	4769	43.5	4900	44.7	2897	51.8	2005	35.8	1872	34.9	2895	53.9
理科	5348	48.8	4063	37.1	3310	59.1	1537	27.5	2038	38.0	2526	47.0
物理	1970	18.0	4446	40.5	1480	26.4	1932	34.5	490	9.1	2514	46.8
化学	3085	28.1	3777	34.4	2181	39.0	1496	26.7	904	16.8	2281	42.5
生物	3633	33.1	3218	29.3	2223	39.7	1411	25.2	1410	26.3	1807	33.6
地学	1139	10.4	4889	44.6	811	14.5	2370	42.4	328	6.1	2519	46.9
英語	4866	44.4	4600	41.9	2134	38.1	2599	46.4	2732	50.9	2001	37.3
音楽	6275	57.2	3145	28.7	2176	38.9	2405	43.0	4099	76.3	740	13.8
美術	5472	49.9	3834	35.0	2335	41.7	2288	40.9	3137	58.4	1546	28.8
工芸	3254	29.7	3347	30.5	1602	28.6	1880	33.6	1652	30.8	1467	27.3
書道	2507	22.9	5225	47.6	812	14.5	3131	56.0	1695	31.6	2094	39.0
保健・体育	7073	64.5	2412	22.0	3990	71.3	864	15.4	3083	57.4	1548	28.8
技術・家庭	5837	53.2	3024	27.6	2869	51.3	1591	28.4	2968	55.3	1433	26.7
情報	2756	25.1	3571	32.6	1469	26.3	1914	34.2	1287	24.0	1657	30.9

注: %は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-2 高校生の科目の好き嫌い(それぞれ上位3位に網掛け)

科目	全体(n=17,104)				男子(n=8,409)				女子(n=8,695)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	6532	38.2	5317	31.1	2565	30.5	3103	36.9	3967	45.6	2214	25.5
古典	2865	16.8	8513	49.8	1027	12.2	4494	53.4	1838	21.1	4022	46.3
世界史	4557	26.6	7106	41.5	2598	30.9	2990	35.6	1959	22.5	4116	47.3
日本史	4890	28.6	6600	38.6	2695	32.0	2854	33.9	2195	25.2	3746	43.1
地理	3096	18.1	7674	44.9	1922	22.9	3236	38.5	1174	13.5	4438	51.0
政治・経済	2146	12.5	8144	47.6	1303	15.5	3650	43.4	843	9.7	4494	51.7
現代社会	3408	19.9	6614	38.7	1912	22.7	2918	34.7	1496	17.2	3696	42.5
数学	5247	30.7	8474	49.5	2964	35.2	3653	43.4	2283	26.3	4821	55.4
理科	5105	29.8	6099	35.7	3153	37.5	2402	28.6	1952	22.4	3697	42.5
物理	2289	13.4	8206	48.0	1738	20.7	3412	40.6	551	6.3	4794	55.1
化学	3436	20.1	7786	45.5	2287	27.2	3121	37.1	1149	13.2	4665	53.7
生物	4965	29.0	5669	33.1	2527	30.1	2555	30.4	2438	28.0	3114	35.8
地学	1523	8.9	7338	42.9	955	11.4	3326	39.6	568	6.5	4012	46.1
英語	5167	30.2	8108	47.4	2068	24.6	4360	51.8	3099	35.6	3748	43.1
音楽	8498	49.7	3529	20.6	3049	36.3	2443	29.1	5449	62.7	1086	12.5
美術	6666	39.0	4936	28.9	2687	32.0	2783	33.1	3979	45.8	2153	24.8
工芸	4484	26.2	4757	27.8	2176	25.9	2400	28.5	2308	26.5	2357	27.1
書道	3942	23.0	6223	36.4	1297	15.4	3567	42.4	2645	30.4	2656	30.5
保健・体育	9689	56.6	3221	18.8	5275	62.7	1127	13.4	4414	50.8	2094	24.1
技術・家庭	7012	41.0	3678	21.5	2938	34.9	2068	24.6	4074	46.9	1610	18.5
情報	5809	34.0	4738	27.7	2952	35.1	2193	26.1	2857	32.9	2545	29.3

注: %は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

高校生では、必修科目に回答が集中している。それでも、数学で好き嫌いを回答した生徒が8割あるのが最高で、他の科目名では特に回答していない生徒の数が少なくない。中学校と違い選択科目を含めて科目数が増え、学校の授業から少し距離を置き始めるためもあるだろう。

(2) 好きな科目、嫌いな科目にみられる男女差

この素集計を男女別の視点で見ると、中学校、高等学校を通して、男女による興味関心の違いが顕著であることがわかる。

好きな科目の男女差を見てみる。男子の中学校は保健・体育、理科、数学、技術・家庭、日本史、高等学校は保健・体育、理科、音楽、数学、情報の順である。理科、数学、情報が男子の好きな特徴的な科目であるといえる。一方、女子では、中学校は音楽、美術、保健・体育、技術・家庭、英語、高等学校は音楽、保健・体育、技術・家庭、美術、国語の順である。中学生の女子の音楽に対する支持は圧倒的で、中学校全体の音楽の支持にも影響している。音楽と国語、英語、美術が女子の好きな特徴的な科目であると言える。男子は理工系の科目が、女子は語学・芸術系の科目が好きだという一般的な見方が裏付けられたと言える。

嫌いな科目は、男子は、中学校で書道、古典、国語、政治経済、英語、高等学校では古典、英語、数学、政治経済、書道の順である。中学男子では上位3科目を国語の科目が占めている。書道も古典も中学校にはない科目である。書道は恐らく書写の印象であると思われる。高等学校でも、嫌いな書道を選択するはずはないが、中学校の書写の印象を回答していると考えられる。

中学校女子では地理、政治経済、数学、理科、地学の順である。高等学校女子では数学、物理、化学、政治経済、地理の順である。理数科目と地理が特徴的である。

学習はその興味・関心が高いほど理解が進むため、興味・関心のない教科・科目の授業は生徒にとっても苦痛である。教える側の教員にとってもそういった生徒は悩みの種であるが、生徒の興味・関心や特性を念頭に、生徒の側に立った授業の工夫をすることが必要になるだろう。

12-3-2 職業興味のタイプ別に見た好きな科目、嫌いな科目

A 検査の職業興味について、「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」を2点～0点として採点し、職業興味の6領域（RIASEC）に関してそれぞれ合計点を算出した。そして、中学校、高校、男女別に尺度ごとに得点の分布をみて、得点の高い方から順に15%の者を選び、各尺度の名称をつけて、RタイプからCタイプまで6つのタイプを抽出した。タイプ別に好きな科目、嫌いな科目の選択度数を算出した(図表 12-3～図表 12-8)。また、中学男子、中学女子、高校男子、高校女子という属性別に各教科に対する「やりたい」というパーセンテージを6つのタイプ間で比較したグラフを図表 12-9～図表 12-12 に示す。各タイプ別に好き、嫌いそれぞれのパーセンテージの高かった上位5科目に網掛けをした。

タイプ別にみた好きな科目を検証した。嫌いな科目については因果関係が見いだしにくく考察を省いた。Rタイプ男子は保健・体育と技術・家庭、Iタイプは理科系、Aタイプは美術、音楽、国語、Sタイプ女子は音楽、保健・体育、技術・家庭、Eタイプは男子が日本史、女子

が英語、Cタイプは数学と情報をそれぞれ典型的に好むことがわかった。

①Rタイプ（図表 12-3）

まずRタイプの好きな科目である。男子は中学校で保健・体育、理科、技術・家庭、数学、生物の順、高等学校で保健・体育、技術・家庭、理科、音楽、情報の順である。女子は中学校で音楽、美術、保健・体育、技術・家庭、国語の順、高等学校で音楽、保健・体育、技術・家庭、美術、国語の順である。中学男子の保健・体育 81.6%と技術・家庭 67.3%、高校男子の保健・体育 75.2%と技術・家庭 50.9%はその科目の中でRタイプが最高値である（図表 12-9、図表 12-11）。女子ではそういう特色は見いだせない。保健・体育と技術・家庭はRタイプ男子の好む典型的な科目であると言える。

②Iタイプ（図表 12-4）

Iタイプの好きな科目である。男子は中学校で理科、化学、保健・体育、数学、技術・家庭の順、高等学校で理科、保健・体育、化学、生物、数学の順である。女子は中学校で音楽、美術、理科、英語、技術・家庭の順、高等学校で音楽、美術、国語、生物、保健・体育の順である。中学男子の化学、中学女子の理科、高校女子の生物は他のタイプでは5位に入らず、高校男子の数学も他にCタイプだけであり、いかにもIタイプ好みの科目と言える。中学男子では理科 81.3%、化学 64.2%、生物 57.2%、物理 48.8%が、高校男子でも理科 59.6%、化学 49.7%、生物 48.4%、物理 37.7%がすべてその科目の中でIタイプが最も高い数値である（図表 12-9、図表 12-11）。女子も中学で理科 62.9%、生物 43.1%、高校で理科 39.6%、生物 49.2%と科目の中でIタイプが最も高い数値である（図表 12-10）。Iタイプらしい好みが理科系の科目であることがわかる。

③Aタイプ（図表 12-5）

Aタイプの好きな科目である。男子は中学校で保健・体育、美術、技術・家庭、理科、音楽の順、高等学校で保健・体育、美術、音楽、情報、技術・家庭の順である。女子は中学校で音楽、美術、技術・家庭、国語、英語の順、高等学校で美術、音楽、国語、技術・家庭、保健・体育の順である。中学男子の美術はSタイプに、中学女子の国語はRタイプにも登場するが、中学男子の音楽、高校男子の美術は他のタイプでは上位5位に登場せず、美術、音楽、国語がAタイプの好む特徴的な科目だと言える。美術は中学男子の 62.1%、高校男子 56.5%、中学女子 79.3%、高校女子 75.7%が好きと答え、それぞれ美術の中でAタイプが最も高い数値である（図表 12-9～図表 12-12）。音楽も中学男子の 51.3%、高校男子 53.6%、中学女子 81.4%、高校女子 73.2%が好きと答え、中学女子以外それぞれ音楽の中でAタイプが最も高い数値である。国語も高校男子 41.6%、中学女子 56.0%、高校女子 59.4%が好きと答えそれぞれ国語の中でAタイプが最も高い数値である。

図表12-3 Rタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 R(n=817)				中学生女子 R(n=609)				高校生男子 R(n=1,350)				高校生女子 R(n=1,274)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	265	32.4	420	51.4	301	49.4	203	33.3	442	32.7	509	37.7	582	45.7	321	25.2
古典	113	13.8	433	53.0	117	19.2	280	46.0	184	13.6	732	54.2	342	26.8	503	39.5
世界史	279	34.1	291	35.6	151	24.8	249	40.9	464	34.4	469	34.7	333	26.1	554	43.5
日本史	364	44.6	261	31.9	190	31.2	249	40.9	448	33.2	488	36.1	367	28.8	511	40.1
地理	308	37.7	357	43.7	145	23.8	333	54.7	415	30.7	478	35.4	223	17.5	624	49.0
政治・経済	136	16.6	419	51.3	55	9.0	322	52.9	231	17.1	625	46.3	139	10.9	665	52.2
現代社会	187	22.9	342	41.9	90	14.8	272	44.7	404	29.9	442	32.7	247	19.4	536	42.1
数学	453	55.4	296	36.2	242	39.7	293	48.1	532	39.4	565	41.9	430	33.8	589	46.2
理科	553	67.7	182	22.3	299	49.1	224	36.8	685	50.7	294	21.8	409	32.1	409	32.1
物理	280	34.3	248	30.4	92	15.1	253	41.5	392	29.0	491	36.4	130	10.2	620	48.7
化学	393	48.1	178	21.8	145	23.8	219	36.0	486	36.0	427	31.6	245	19.2	600	47.1
生物	414	50.7	158	19.3	212	34.8	164	26.9	529	39.2	345	25.6	441	34.6	371	29.1
地学	167	20.4	325	39.8	75	12.3	265	43.5	234	17.3	528	39.1	117	9.2	546	42.9
英語	328	40.1	393	48.1	297	48.8	247	40.6	327	24.2	758	56.1	409	32.1	605	47.5
音楽	339	41.5	355	43.5	468	76.8	80	13.1	573	42.4	388	28.7	820	64.4	141	11.1
美術	408	49.9	289	35.4	397	65.2	134	22.0	514	38.1	395	29.3	676	53.1	242	19.0
工芸	339	41.5	200	24.5	255	41.9	125	20.5	546	40.4	279	20.7	516	40.5	212	16.6
書道	141	17.3	448	54.8	210	34.5	224	36.8	267	19.8	559	41.4	418	32.8	328	25.7
保健・体育	667	81.6	83	10.2	392	64.4	131	21.5	1015	75.2	106	7.9	773	60.7	215	16.9
技術・家庭	550	67.3	144	17.6	380	62.4	118	19.4	687	50.9	240	17.8	715	56.1	168	13.2
情報	223	27.3	282	34.5	152	25.0	187	30.7	568	42.1	336	24.9	503	39.5	321	25.2
A検査視点	14点以上				9点以上				14点以上				8以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-4 Iタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 I(n=738)				中学生女子 I(n=603)				高校生男子 I(n=1,313)				高校生女子 I(n=1,327)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	268	36.3	318	43.1	326	54.1	175	29.0	406	30.9	434	33.1	666	50.2	268	20.2
古典	158	21.4	309	41.9	163	27.0	207	34.3	239	18.2	595	45.3	441	33.2	423	31.9
世界史	348	47.2	172	23.3	207	34.3	178	29.5	549	41.8	306	23.3	486	36.6	407	30.7
日本史	402	54.5	169	22.9	266	44.1	172	28.5	521	39.7	318	24.2	498	37.5	388	29.2
地理	311	42.1	259	35.1	170	28.2	307	50.9	404	30.8	365	27.8	269	20.3	534	40.2
政治・経済	205	27.8	252	34.1	76	12.6	286	47.4	305	23.2	410	31.2	184	13.9	528	39.8
現代社会	230	31.2	215	29.1	118	19.6	228	37.8	378	28.8	301	22.9	293	22.1	423	31.9
数学	445	60.3	210	28.5	270	44.8	255	42.3	591	45.0	405	30.8	431	32.5	611	46.0
理科	600	81.3	69	9.3	379	62.9	147	24.4	783	59.6	155	11.8	526	39.6	267	20.1
物理	360	48.8	120	16.3	139	23.1	188	31.2	495	37.7	308	23.5	179	13.5	568	42.8
化学	474	64.2	55	7.5	225	37.3	140	23.2	653	49.7	244	18.6	405	30.5	449	33.8
生物	422	57.2	86	11.7	260	43.1	107	17.7	636	48.4	177	13.5	653	49.2	216	16.3
地学	224	30.4	200	27.1	100	16.6	211	35.0	303	23.1	317	24.1	203	15.3	416	31.3
英語	306	41.5	306	41.5	335	55.6	193	32.0	329	25.1	629	47.9	478	36.0	530	39.9
音楽	273	37.0	314	42.5	441	73.1	94	15.6	441	33.6	389	29.6	785	59.2	161	12.1
美術	322	43.6	294	39.8	388	64.3	144	23.9	424	32.3	404	30.8	680	51.2	238	17.9
工芸	258	35.0	195	26.4	222	36.8	132	21.9	387	29.5	288	21.9	432	32.6	218	16.4
書道	122	16.5	396	53.7	198	32.8	210	34.8	216	16.5	515	39.2	406	30.6	331	24.9
保健・体育	465	63.0	152	20.6	320	53.1	188	31.2	718	54.7	214	16.3	599	45.1	324	24.4
技術・家庭	430	58.3	164	22.2	335	55.6	152	25.2	494	37.6	240	18.3	591	44.5	204	15.4
情報	265	35.9	182	24.7	173	28.7	155	25.7	529	40.3	224	17.1	448	33.8	311	23.4
A検査視点	13点以上				8点以上				11点以上				8以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-5 Aタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 A(n=815)				中学生女子 A(n=652)				高校生男子 A(n=1,289)				高校生女子 A(n=1,340)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	319	39.1	333	40.9	365	56.0	186	28.5	536	41.6	355	27.5	796	59.4	189	14.1
古典	139	17.1	386	47.4	157	24.1	239	36.7	228	17.7	640	49.7	406	30.3	496	37.0
世界史	313	38.4	254	31.2	181	27.8	236	36.2	475	36.9	417	32.4	451	33.7	493	36.8
日本史	385	47.2	235	28.8	239	36.7	225	34.5	466	36.2	404	31.3	469	35.0	472	35.2
地理	298	36.6	335	41.1	158	24.2	363	55.7	322	25.0	498	38.6	225	16.8	627	46.8
政治・経済	158	19.4	384	47.1	60	9.2	339	52.0	251	19.5	554	43.0	184	13.7	644	48.1
現代社会	237	29.1	297	36.4	107	16.4	259	39.7	344	26.7	422	32.7	275	20.5	521	38.9
数学	417	51.2	287	35.2	236	36.2	344	52.8	438	34.0	586	45.5	307	22.9	781	58.3
理科	491	60.2	212	26.0	313	48.0	241	37.0	521	40.4	357	27.7	362	27.0	487	36.3
物理	236	29.0	282	34.6	95	14.6	262	40.2	304	23.6	527	40.9	109	8.1	728	54.3
化学	345	42.3	200	24.5	163	25.0	233	35.7	380	29.5	479	37.2	227	16.9	677	50.5
生物	358	43.9	183	22.5	243	37.3	157	24.1	464	36.0	362	28.1	499	37.2	389	29.0
地学	153	18.8	323	39.6	62	9.5	279	42.8	202	15.7	501	38.9	147	11.0	552	41.2
英語	361	44.3	342	42.0	347	53.2	225	34.5	381	29.6	609	47.2	494	36.9	551	41.1
音楽	418	51.3	252	30.9	531	81.4	71	10.9	693	53.8	218	16.9	981	73.2	104	7.8
美術	506	62.1	179	22.0	517	79.3	82	12.6	728	56.5	202	15.7	1014	75.7	93	6.9
工芸	323	39.6	197	24.2	275	42.2	110	16.9	502	38.9	256	19.9	588	43.9	174	13.0
書道	167	20.5	391	48.0	221	33.9	232	35.6	258	20.0	479	37.2	457	34.1	369	27.5
保健・体育	629	77.2	99	12.1	328	50.3	234	35.9	813	63.1	161	12.5	629	46.9	361	26.9
技術・家庭	494	60.6	168	20.6	393	60.3	145	22.2	572	44.4	251	19.5	701	52.3	200	14.9
情報	307	37.7	201	24.7	223	34.2	141	21.6	581	45.1	269	20.9	545	40.7	319	23.8
A検査観点	11点以上				15点以上				11点以上				13以上			

注：%は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-6 Sタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 S(n=800)				中学生女子 S(n=730)				高校生男子 S(n=1,365)				高校生女子 S(n=1,137)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	311	38.9	357	44.6	409	56.0	214	29.3	534	39.1	425	31.1	575	49.0	293	25.0
古典	132	16.5	415	51.9	129	17.7	331	45.3	245	17.9	674	49.4	269	22.9	531	45.3
世界史	301	37.6	268	33.5	165	22.6	312	42.7	472	34.6	452	33.1	290	24.7	567	48.3
日本史	399	49.9	219	27.4	232	31.8	291	39.9	508	37.2	411	30.1	294	25.1	519	44.2
地理	309	38.6	327	40.9	181	24.8	409	56.0	386	28.3	471	34.5	217	18.5	562	47.9
政治・経済	164	20.5	381	47.6	70	9.6	395	54.1	279	20.4	561	41.1	129	11.0	596	50.8
現代社会	218	27.3	313	39.1	139	19.0	308	42.2	419	30.7	398	29.2	251	21.4	462	39.4
数学	429	53.6	287	35.9	290	39.7	364	49.9	536	39.3	564	41.3	372	31.7	600	51.2
理科	483	60.4	216	27.0	318	43.6	293	40.1	568	41.6	351	25.7	324	27.6	437	37.3
物理	237	29.6	291	36.4	101	13.8	320	43.8	285	20.9	547	40.1	72	6.1	650	55.4
化学	354	44.3	216	27.0	154	21.1	300	41.1	400	29.3	507	37.1	176	15.0	611	52.1
生物	387	48.4	181	22.6	256	35.1	203	27.8	500	36.6	367	26.9	418	35.6	365	31.1
地学	156	19.5	327	40.9	66	9.0	346	47.4	194	14.2	515	37.7	90	7.7	523	44.6
英語	359	44.9	333	41.6	423	57.9	228	31.2	427	31.3	614	45.0	480	40.9	463	39.5
音楽	395	49.4	276	34.5	613	84.0	70	9.6	667	48.9	280	20.5	838	71.4	90	7.7
美術	419	52.4	258	32.3	429	58.8	215	29.5	513	37.6	402	29.5	540	46.0	292	24.9
工芸	301	37.6	234	29.3	262	35.9	187	25.6	425	31.1	340	24.9	361	30.8	287	24.5
書道	176	22.0	411	51.4	282	38.6	241	33.0	281	20.6	507	37.1	414	35.3	328	28.0
保健・体育	635	79.4	87	10.9	497	68.1	143	19.6	999	73.2	116	8.5	771	65.7	163	13.9
技術・家庭	479	59.9	193	24.1	483	66.2	132	18.1	612	44.8	249	18.2	683	58.2	141	12.0
情報	252	31.5	263	32.9	237	32.5	187	25.6	550	40.3	304	22.3	428	36.5	332	28.3
A検査観点	10点以上				14点以上				10点以上				14以上			

注：%は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-7 Eタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 E(n=823)				中学生女子 E(n=670)				高校生男子 E(n=1,146)				高校生女子 E(n=1,312)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	330	40.1	329	40.0	363	54.2	195	29.1	434	37.9	360	31.4	695	53.0	267	20.4
古典	135	16.4	378	45.9	141	21.0	303	45.2	206	18.0	585	51.0	342	26.1	560	42.7
世界史	338	41.1	212	25.8	182	27.2	276	41.2	448	39.1	319	27.8	371	28.3	544	41.5
日本史	431	52.4	193	23.5	248	37.0	252	37.6	472	41.2	297	25.9	408	31.1	507	38.6
地理	309	37.5	325	39.5	155	23.1	395	59.0	332	29.0	393	34.3	257	19.6	600	45.7
政治・経済	180	21.9	329	40.0	87	13.0	364	54.3	313	27.3	402	35.1	216	16.5	558	42.5
現代社会	244	29.6	258	31.3	150	22.4	276	41.2	388	33.9	306	26.7	328	25.0	457	34.8
数学	431	52.4	280	34.0	275	41.0	324	48.4	415	36.2	513	44.8	365	27.8	725	55.3
理科	491	59.7	225	27.3	296	44.2	276	41.2	448	39.1	328	28.6	354	27.0	514	39.2
物理	233	28.3	267	32.4	92	13.7	298	44.5	259	22.6	476	41.5	107	8.2	696	53.0
化学	313	38.0	206	25.0	160	23.9	266	39.7	348	30.4	422	36.8	223	17.0	671	51.1
生物	325	39.5	188	22.8	234	34.9	197	29.4	403	35.2	328	28.6	422	32.2	422	32.2
地学	139	16.9	313	38.0	70	10.4	308	46.0	179	15.6	438	38.2	117	8.9	569	43.4
英語	403	49.0	293	35.6	397	59.3	202	30.1	398	34.7	478	41.7	575	43.8	471	35.9
音楽	379	46.1	299	36.3	552	82.4	63	9.4	559	48.8	235	20.5	918	70.0	119	9.1
美術	384	46.7	289	35.1	439	65.5	148	22.1	449	39.2	329	28.7	713	54.3	226	17.2
工芸	258	31.3	252	30.6	275	41.0	150	22.4	340	29.7	312	27.2	461	35.1	247	18.8
書道	142	17.3	435	52.9	254	37.9	238	35.5	211	18.4	463	40.4	467	35.6	335	25.5
保健・体育	655	79.6	76	9.2	438	65.4	154	23.0	792	69.1	121	10.6	767	58.5	227	17.3
技術・家庭	446	54.2	217	26.4	415	61.9	141	21.0	451	39.4	259	22.6	693	52.8	179	13.6
情報	299	36.3	196	23.8	244	36.4	151	22.5	491	42.8	242	21.1	498	38.0	322	24.5
A検査観点	12点以上				11点以上				12点以上				11以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

図表12-8 Cタイプの科目の好き嫌い

科目	中学生男子 C(n=880)				中学生女子 C(n=697)				高校生男子 C(n=1,243)				高校生女子 C(n=1,342)			
	好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい		好き		きらい	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
国語	311	35.3	383	43.5	344	49.4	212	30.4	425	34.2	408	32.8	639	47.6	300	22.4
古典	141	16.0	407	46.3	130	18.7	288	41.3	189	15.2	617	49.6	343	25.6	546	40.7
世界史	318	36.1	266	30.2	174	25.0	283	40.6	413	33.2	377	30.3	326	24.3	597	44.5
日本史	444	50.5	202	23.0	235	33.7	253	36.3	430	34.6	363	29.2	384	28.6	524	39.0
地理	350	39.8	332	37.7	167	24.0	369	52.9	331	26.6	396	31.9	246	18.3	609	45.4
政治・経済	216	24.5	328	37.3	95	13.6	324	46.5	307	24.7	375	30.2	217	16.2	561	41.8
現代社会	251	28.5	282	32.0	145	20.8	255	36.6	361	29.0	294	23.7	274	20.4	480	35.8
数学	587	66.7	199	22.6	337	48.4	284	40.7	637	51.2	386	31.1	533	39.7	566	42.2
理科	553	62.8	201	22.8	298	42.8	283	40.6	562	45.2	254	20.4	341	25.4	506	37.7
物理	291	33.1	238	27.0	96	13.8	283	40.6	348	28.0	395	31.8	109	8.1	645	48.1
化学	393	44.7	182	20.7	153	22.0	255	36.6	452	36.4	343	27.6	242	18.0	620	46.2
生物	321	36.5	223	25.3	198	28.4	211	30.3	378	30.4	330	26.5	382	28.5	406	30.3
地学	162	18.4	311	35.3	70	10.0	287	41.2	196	15.8	392	31.5	114	8.5	542	40.4
英語	436	49.5	309	35.1	391	56.1	217	31.1	359	28.9	578	46.5	494	36.8	569	42.4
音楽	337	38.3	352	40.0	520	74.6	103	14.8	436	35.1	363	29.2	833	62.1	136	10.1
美術	332	37.7	377	42.8	355	50.9	241	34.6	346	27.8	448	36.0	513	38.2	394	29.4
工芸	232	26.4	287	32.6	215	30.8	183	26.3	295	23.7	329	26.5	343	25.6	331	24.7
書道	165	18.8	444	50.5	241	34.6	243	34.9	200	16.1	472	38.0	456	34.0	334	24.9
保健・体育	595	67.6	147	16.7	389	55.8	212	30.4	698	56.2	186	15.0	649	48.4	323	24.1
技術・家庭	486	55.2	206	23.4	432	62.0	143	20.5	468	37.7	239	19.2	637	47.5	203	15.1
情報	330	37.5	202	23.0	235	33.7	138	19.8	707	56.9	144	11.6	698	52.0	196	14.6
A検査観点	10点以上				11点以上				10点以上				11以上			

注：％は全体、男子、女子それぞれの総数に対する選択者数の割合を示す。

④ Sタイプ(図表 12-6)

Sタイプの好きな科目である。中学校男子では保健・体育、理科、技術・家庭、数学、美術の順である。高等学校男子では保健・体育、音楽、技術・家庭、理科、情報の順である。中学校女子では音楽、保健・体育、技術・家庭、美術、英語の順である。高等学校女子では美術、音楽、国語、技術・家庭、保健・体育の順である。中学男子の美術は他にAタイプで登場するだけである。中学女子の音楽 84.0%、保健・体育 68.1%、技術・家庭 66.2%、高校女子の音楽 71.4%、保健・体育 65.7%、技術・家庭 58.2%は高校女子の音楽を除いてその科目の中でSタイプが最高値である。男子ではそういう特色は見いだせない。音楽、保健・体育、技術・家庭はSタイプ女子の好む典型的な科目であると言える。Rタイプと反対の位置づけにあるように思える。

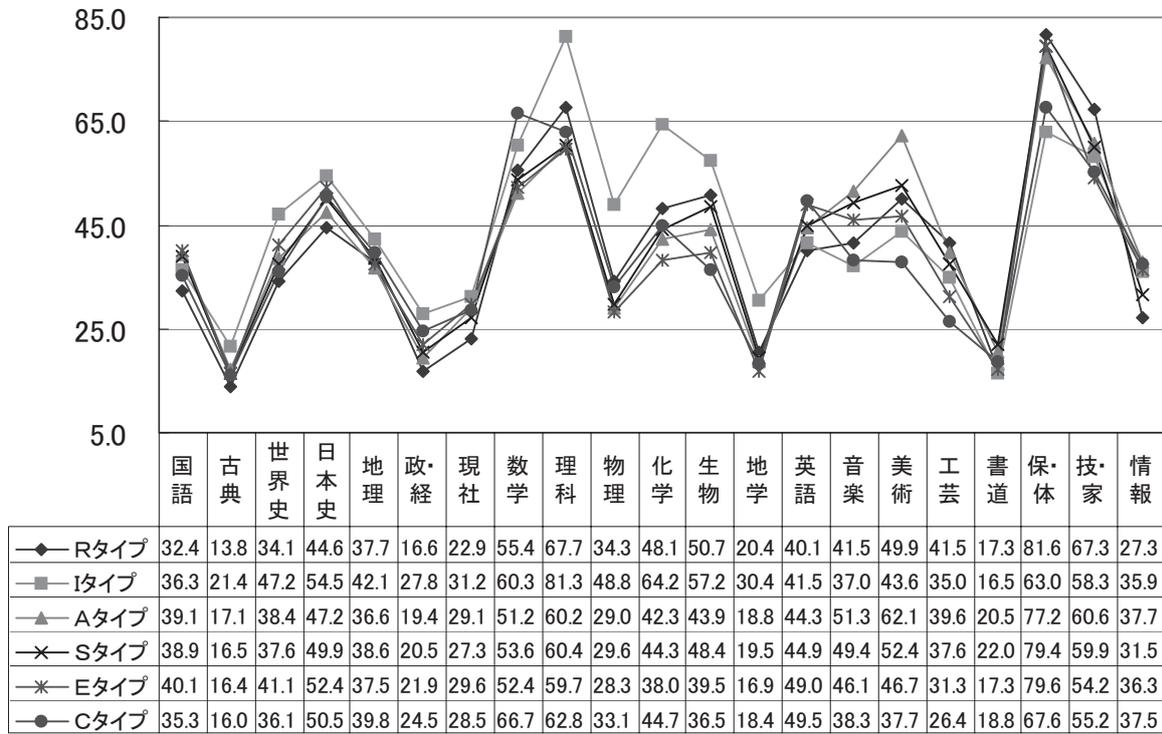
⑤ Eタイプ(図表 12-7)

Eタイプの好きな科目である。男子は中学校で保健・体育、理科、技術・家庭、数学、日本史の順、高等学校で保健・体育、音楽、情報、日本史、技術・家庭の順である。女子は中学校で音楽、美術、保健・体育、技術・家庭、英語の順、高等学校で美術、音楽、国語、技術・家庭、保健・体育の順である。高校男子の日本史が他で登場せず、中学男子でも他にCタイプでしか登場しないため、Eタイプ男子の好む特徴的な科目だと言える。中学女子の英語 59.3%と高校女子の英語 43.8%はそれぞれ科目の中でEタイプが最高値である。Eタイプの女子は比較的英語を好むと言える。

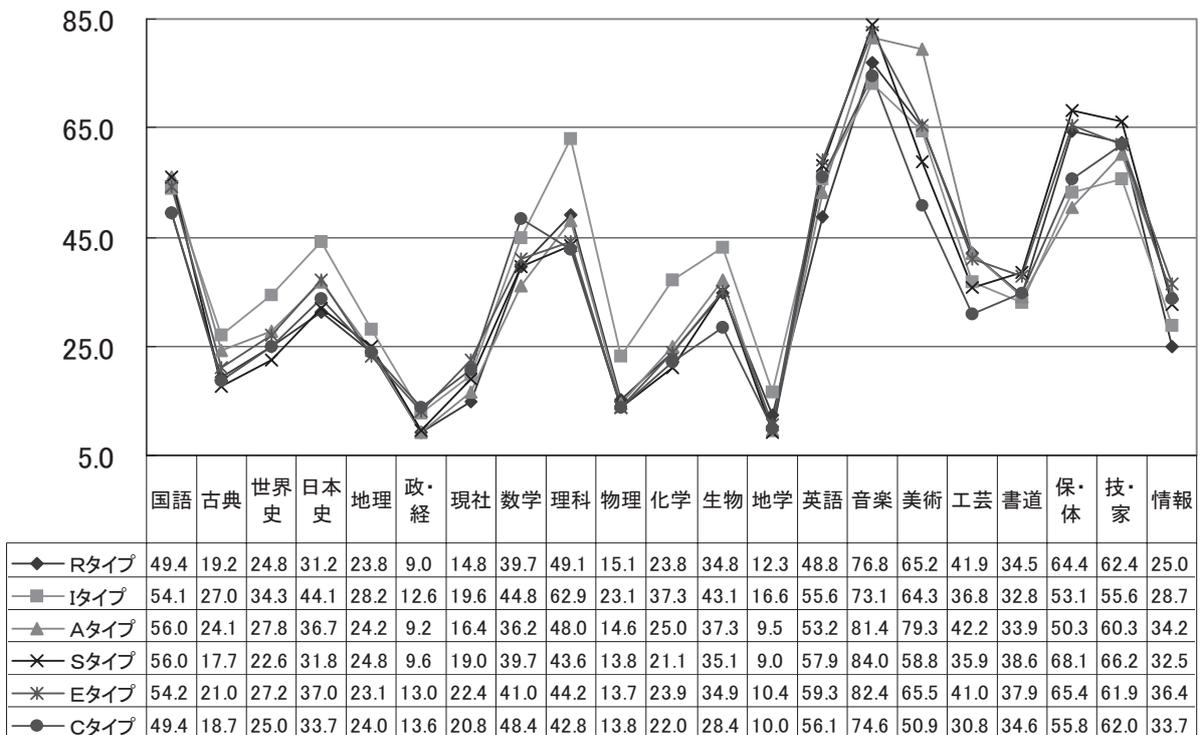
⑥ Cタイプ(図表 12-8)

最後にCタイプである。好きな科目は次の通りである。男子は中学校で保健・体育、数学、理科、技術・家庭、日本史の順、高等学校で情報、保健・体育、数学、理科、技術・家庭の順である。女子は中学校で音楽、技術・家庭、英語、保健・体育、美術の順、高等学校で音楽、情報、保健・体育、国語、技術・家庭の順である。中学男子の日本史は他にEタイプに登場するだけである。高校男子の数学は他にIタイプで登場する。高校女子の情報は他で登場しない。中学生の数学(男子 66.7%、女子 48.4%)、高校生の数学(男子 51.2%、女子 39.7%)と情報(男子 56.9%、女子 52.0%)はその科目の中でCタイプが最も高い数値である。数学、情報を好むところがCタイプの特徴と言える。

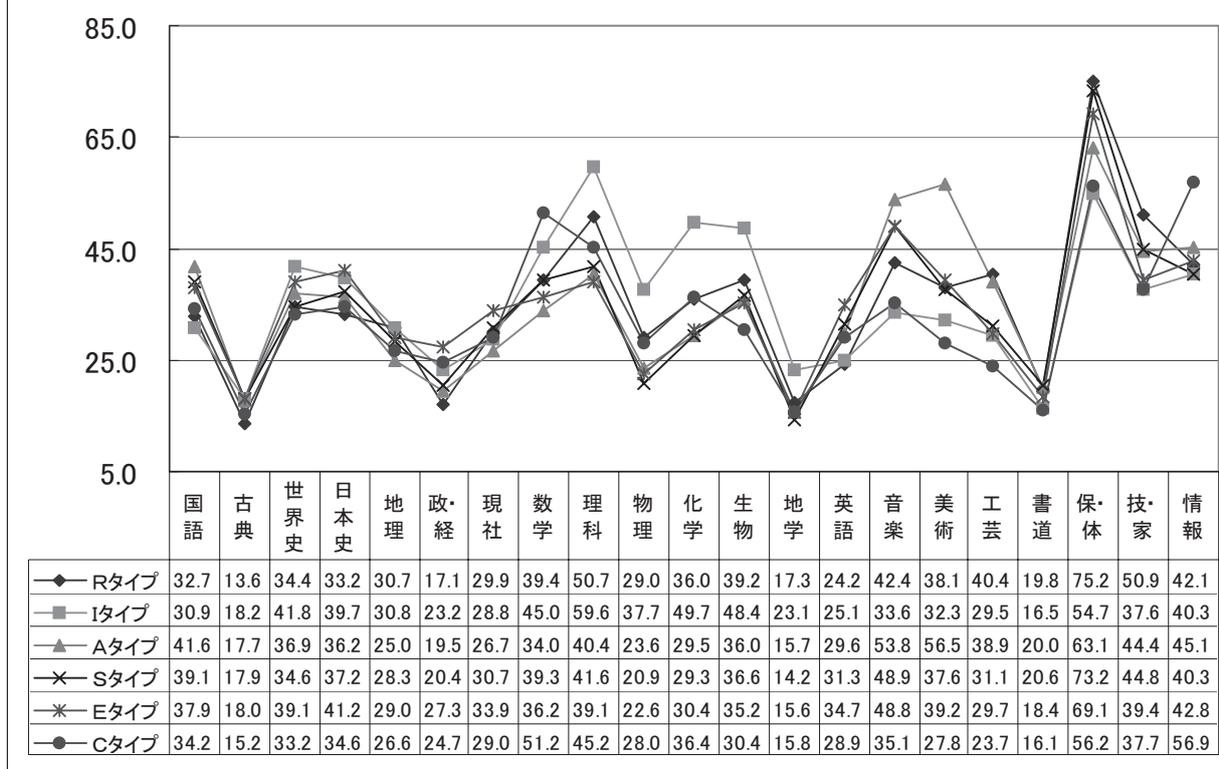
図12-9 中学生男子の職業興味タイプと好きな科目



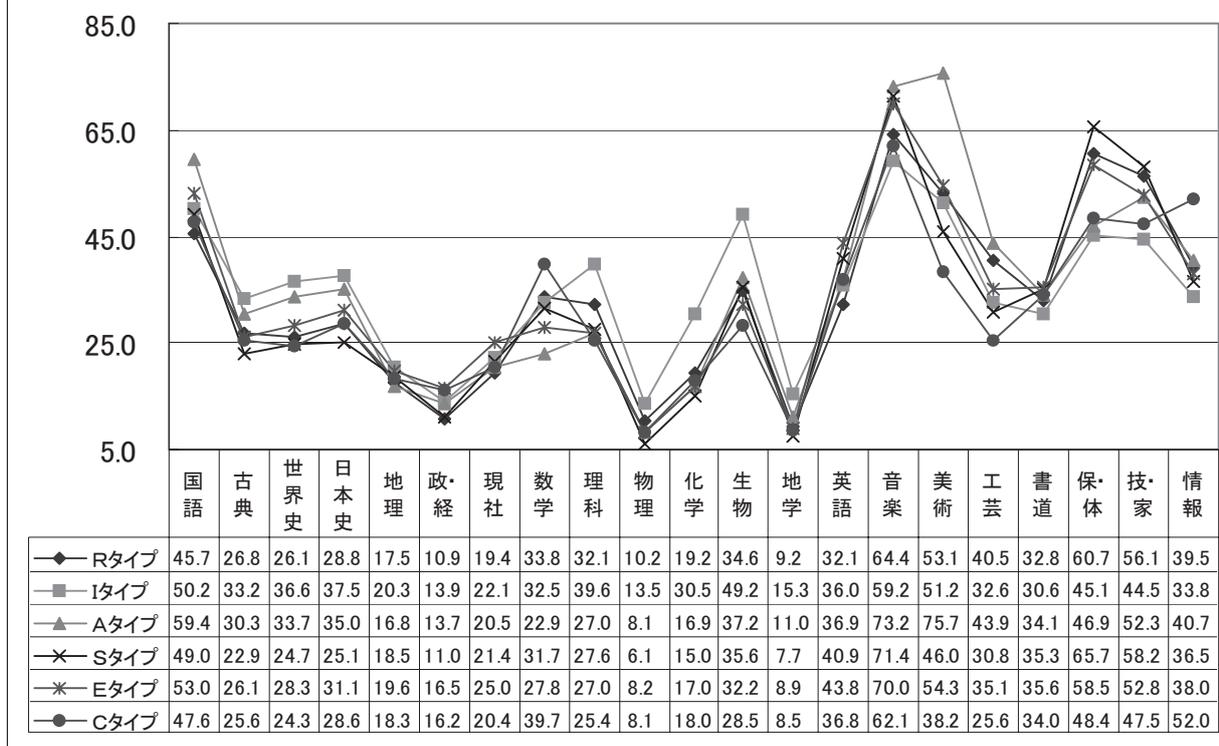
図表12-10 中学生女子の職業興味タイプと好きな科目



図表12-11 高校生男子の職業興味タイプと好きな科目



図表12-12 高校生女子の職業興味タイプと好きな科目



12-3-3 好きな科目別にみたA検査各尺度得点との関連の検討

中学校、高等学校それぞれにおいて各科目別にその科目を「好き」と回答した者のA検査の尺度の平均値と標準偏差を算出した。中学生と高校生の全体の結果を図表 12-13 に、中学生男女別の結果を図表 12-14、高校生男女別の結果を図表 12-15 に示す。それぞれの表で科目ごとに最も平均値の高い上位 3 つの職業興味に網掛けをした。なお、結果の解釈においては、各尺度の平均値の高い値から上位 3 領域の頭文字を並べて 3 レターコードとした。

結果は特に男女間に大きな差が見られ、全体の数値は男女の比率に従って合成された数値だと考えられた。すなわち、男女別にみると、科目に関係なく A 検査の各尺度の平均値の高さが反映されている結果となっている。また、全体的な回答傾向として、中学生の科目に対する理解が十分でないと判断し、主に高等学校のデータを使った。

全体の平均値では、物理と R タイプ、地学と I タイプ、美術と A タイプ、政治・経済と E タイプ、情報と C タイプについては、各科目の内容や印象と各タイプの興味関心がよく一致した。その他にも職業興味の A 検査の各尺度得点と各科目に対する興味・関心に関係がある様子がわかった。さらに、男子を人文系の R E A タイプ、芸術系の R A E タイプ、社会学系の R E I タイプ、理科系 R I E タイプの 4 タイプに、女子を普通系の S A E タイプ、芸術系の A S E タイプ、情報系の S A C タイプの 3 タイプに分けることができた。以下、科目の分類にしたがって、それぞれの特徴をみる。

①国語科の科目

国語の科目は同じ傾向である。国語は全体では A S E、男子は R E A、女子は S A E の順に高い。古典は全体では A S E、男子は R E A、女子は S A E の順に高い。男子の S 得点 6.27 は全ての科目で最も高い値である。男子で古典を好む生徒は少ないが、古典が好きな少数の生徒は S 得点が高いということになる。

②社会科の科目

社会科の科目は、世界史は全体では A E S、男子は R E A、女子は A S E の順に高い。日本史は全体では A S E、男子は R E A、女子は S A E の順に高い。地理は全体では R S E、男子は R E I、女子は S A E の順に高い。女子の S 得点 8.91 は全ての科目で最も高い値である。女子で地理を好む生徒は少ないが、地理が好きな生徒は S 得点が高い。政治経済は全体では E A S、男子は R E I、女子は S A E の順に高い。全体の E 得点 7.52、男子の E 得点 7.68、女子の E 得点 7.27 はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。政治や経済の内容と E タイプの興味関心がよく一致しているように思う。現代社会は全体では S E A、男子は R E A、女子は S A E の順に高い。

③理数科の科目

理数系の科目を見る。数学は全体ではSCR、男子はREI、女子はSACの順に高い。全体のA得点 6.19、男子のA得点 5.63、女子のA得点 6.91 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。全体のE得点 6.12、女子のE得点 5.88 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。表現や企画の機会の少ない、指示通り単調な作業をやらされる授業が行われていることが予想される。

理科は全体ではRSA、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。男子のE得点 6.27 は全ての科目で最も低い値である。

物理は全体ではRIA、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。全体のR得点 7.96、女子のR得点 4.57 はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。全体のS得点 6.04、男子のS得点 5.36 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。対人興味よりも対物興味がまさる生徒が物理を好んでいると考えられる。物理はその学習内容からもRタイプの興味関心をよく表した科目だと言える。

化学は全体ではRIA、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。生物は全体ではSAE、男子はRIE、女子はSAEの順に高い。

地学は全体ではIAR、男子はRIE、女子はASEの順に高い。全体のI得点 7.43、男子のI得点 8.09、女子のI得点 6.32 は全ての科目で最も高い値である。高等学校の中で最も研究的な科目と言うべきである。宇宙や地球といった科学のロマンの印象が強いのかも知れない。

④英語

英語は全体ではASE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。全体のR得点 4.81、男子のR得点 7.60、女子のR得点 2.95 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。対物興味の最も低い科目である

⑤芸術科の科目

芸術の科目を見てみる。音楽は全体ではSAE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。男子のA得点は全ての科目で最も高い値である。全体のI得点 3.81 は全ての科目で最も低い値である。実技中心で研究的なことが少ない授業が行われていることが予想される。美術は全体ではASE、男子はRAE、女子はASEの順に高い。全体のA得点 8.38、男子のA得点 7.43、女子のA得点 9.03 はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。また、全体のC得点 4.81、男子のC得点 4.46、女子のC得点 5.06、女子のS得点 7.86 はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。科目の内容とAタイプの興味関心がたいへんよく一致していると考えられる。工芸は全体ではASR、男子はRAE、女子はASEの順に高い。男子のR得点 9.54 は全ての科目で最も高い値である。工芸を履修選択している生徒は少ないはずだが、男子については、中学校の技術や工業からの連想で回答したものと思われる。書道は全体ではSAE、男子はREA、女子はSAEの順に高い。全体のS得点 7.69 は全ての科目で最も高い値

である。書道も選択履修している生徒は少ないが、中学校国語科の書写のイメージが強いと考えられる。

⑥保健・体育

保健・体育は全体ではS E A、男子はR E A、女子はS A Eの順に高い。男子のI得点4.95、女子のI得点2.90はそれぞれ全ての科目で最も低い値である。実技中心の授業の様子と一致している。

⑦技術・家庭

技術・家庭は全体ではS A E、男子はR E A、女子はS A Eの順に高い。情報は全体ではA S C、男子はR E A、女子はS A Cの順に高い。全体のC得点6.67、男子のC得点6.22、女子のC得点7.14はそれぞれ全ての科目で最も高い値である。科目の内容とIタイプの興味関心がよく一致していると考えられる。

以上の結果をまとめると、男子をR A Eタイプ、R E Aタイプ、R E Iタイプ、R I Eタイプの4タイプに、女子をS A Eタイプ、A S Eタイプ、S A Cタイプの3タイプに分けることができる。第Ⅱ部第6章によると高校生の男子は平均値ではR E Aタイプであるが、そのR E Aタイプが「国語、古典、世界史、日本史、現社、英語、音楽、書道、保健・体育、技術・家庭、情報」を好む人文学系、R A Eタイプが「美術、工芸」を好む芸術系、R E Iタイプが「地理、政治経済、数学」を好む社会学系、R I Eタイプが「理科、物理、化学、生物、地学」を好む理科系のタイプとすることができる。

女子は、平均値ではS A Eタイプとなっている。そのS A Eタイプが「国語、古典、日本史、地理、政治経済、現社、理科、物理、化学、生物、英語、音楽、書道、保健・体育、技術・家庭」を好む普通系、A S Eタイプが「世界史、地学、美術、工芸」を好む芸術系、S A Cタイプが「数学、情報」を好む情報系のタイプだと言える。

ちなみに中学生では男子が国語、日本史、現代社会、数学、英語、工芸、書道、保健・体育、技術・家庭、情報がR E I、古典、世界史、地理、理科、物理、化学、生物、地学がR I E、政治・経済がI R E、音楽と美術がR E Aを示している。女子は、現代社会、数学、英語、書道、保健・体育、技術・家庭がS A E、国語、古典、世界史、日本史、地理、政治・経済、理科、物理、化学、生物、地学、音楽、美術、工芸、情報がA S Eを示しており、高校生のデータに比べると、科目の情報不足等から正確な興味関心を示していないか、興味関心が未分化であるかのどちらかであることがわかる。

図表12-13 中学生全体と高校生全体における各科目を「好き」と回答した者の興味(A検査)各尺度の平均値(mean)と標準偏差(SD)

科目	尺度	中学生全体						高校生全体					
		R	I	A	S	E	C	R	I	A	S	E	C
国語	mean	5.12	5.04	7.65	7.30	6.75	5.29	5.04	4.20	7.34	7.24	6.35	5.36
	SD	(4.95)	(4.89)	(4.94)	(4.74)	(4.48)	(4.48)	(4.98)	(4.53)	(4.88)	(4.73)	(4.50)	(4.58)
古典	mean	5.64	6.48	8.15	7.16	7.17	5.63	5.10	5.24	7.68	7.59	6.62	5.79
	SD	(5.02)	(5.24)	(5.02)	(4.74)	(4.66)	(4.62)	(5.00)	(4.95)	(5.00)	(4.77)	(4.58)	(4.75)
世界史	mean	6.39	6.63	7.18	6.54	7.13	5.38	6.10	5.55	7.11	6.60	6.66	5.28
	SD	(5.13)	(5.15)	(4.90)	(4.60)	(4.56)	(4.54)	(5.26)	(4.94)	(4.89)	(4.69)	(4.53)	(4.55)
日本史	mean	6.13	6.19	7.02	6.51	6.95	5.40	5.90	5.28	6.94	6.70	6.61	5.35
	SD	(5.11)	(5.06)	(4.90)	(4.65)	(4.54)	(4.51)	(5.15)	(4.86)	(4.87)	(4.65)	(4.55)	(4.59)
地理	mean	6.51	6.12	6.83	6.56	6.86	5.55	7.00	5.50	6.64	6.93	6.83	5.56
	SD	(5.15)	(5.02)	(4.83)	(4.59)	(4.41)	(4.57)	(5.33)	(4.98)	(4.73)	(4.71)	(4.56)	(4.62)
政治・経済	mean	6.48	7.12	7.02	6.63	7.76	6.46	6.04	5.63	6.93	6.79	7.52	6.41
	SD	(5.18)	(5.46)	(4.91)	(4.70)	(4.63)	(4.82)	(5.26)	(5.01)	(4.87)	(4.75)	(4.82)	(4.97)
現代社会	mean	6.34	6.33	7.26	6.93	7.55	5.97	6.23	5.01	6.78	7.15	6.92	5.71
	SD	(5.17)	(5.26)	(4.92)	(4.78)	(4.64)	(4.71)	(5.37)	(4.85)	(4.79)	(4.78)	(4.67)	(4.69)
数学	mean	6.14	5.65	6.60	6.38	6.64	5.77	6.27	5.04	6.19	6.83	6.12	6.27
	SD	(5.07)	(4.99)	(4.80)	(4.56)	(4.39)	(4.57)	(5.18)	(4.92)	(4.55)	(4.72)	(4.42)	(4.77)
理科	mean	6.44	6.35	6.77	6.28	6.53	5.21	7.04	6.11	6.61	6.68	6.24	5.55
	SD	(5.16)	(5.12)	(4.89)	(4.62)	(4.44)	(4.42)	(5.32)	(5.15)	(4.73)	(4.72)	(4.46)	(4.53)
物理	mean	7.57	7.78	6.81	6.22	6.95	5.63	7.96	7.07	6.53	6.04	6.46	5.85
	SD	(5.21)	(5.23)	(4.87)	(4.64)	(4.47)	(4.57)	(5.25)	(5.25)	(4.71)	(4.59)	(4.55)	(4.61)
化学	mean	7.21	7.31	6.80	6.22	6.75	5.46	7.22	6.97	6.63	6.43	6.43	5.92
	SD	(5.18)	(5.11)	(4.87)	(4.58)	(4.45)	(4.48)	(5.27)	(5.28)	(4.78)	(4.70)	(4.58)	(4.67)
生物	mean	6.72	6.56	7.08	6.66	6.69	5.01	6.24	5.85	7.03	7.14	6.25	5.25
	SD	(5.23)	(5.04)	(4.94)	(4.72)	(4.46)	(4.33)	(5.23)	(5.12)	(4.87)	(4.79)	(4.51)	(4.50)
地学	mean	7.48	7.95	7.23	6.60	7.11	5.73	7.25	7.43	7.33	6.73	6.88	5.75
	SD	(5.26)	(5.40)	(4.98)	(4.65)	(4.66)	(4.64)	(5.42)	(5.34)	(5.03)	(4.80)	(4.65)	(4.72)
英語	mean	5.10	4.97	7.27	7.07	6.85	5.45	4.81	4.04	6.79	7.45	6.54	5.34
	SD	(4.90)	(4.83)	(4.88)	(4.67)	(4.47)	(4.56)	(4.92)	(4.51)	(4.71)	(4.68)	(4.55)	(4.61)
音楽	mean	4.75	4.45	7.71	7.36	6.56	4.98	5.03	3.81	7.42	7.55	6.47	5.18
	SD	(4.84)	(4.64)	(4.86)	(4.69)	(4.41)	(4.42)	(5.00)	(4.39)	(4.74)	(4.71)	(4.43)	(4.56)
美術	mean	5.48	5.01	8.17	6.90	6.64	4.80	5.53	4.29	8.38	6.94	6.52	4.81
	SD	(5.05)	(4.81)	(4.91)	(4.68)	(4.43)	(4.27)	(5.09)	(4.54)	(4.80)	(4.70)	(4.41)	(4.36)
工芸	mean	6.42	5.50	7.96	6.92	6.82	4.87	6.85	4.76	7.98	6.92	6.64	5.00
	SD	(5.24)	(4.93)	(4.91)	(4.74)	(4.47)	(4.32)	(5.31)	(4.76)	(4.84)	(4.76)	(4.47)	(4.46)
書道	mean	4.92	4.77	7.84	7.69	6.76	5.43	5.17	3.98	7.07	7.69	6.38	5.47
	SD	(4.83)	(4.72)	(4.86)	(4.73)	(4.40)	(4.52)	(5.04)	(4.51)	(4.80)	(4.68)	(4.47)	(4.65)
保健・体育	mean	6.08	4.90	6.71	6.70	6.70	4.92	6.25	4.01	6.31	7.07	6.39	4.90
	SD	(5.15)	(4.72)	(4.70)	(4.65)	(4.42)	(4.34)	(5.24)	(4.45)	(4.59)	(4.72)	(4.43)	(4.42)
技術・家庭	mean	5.96	5.08	7.28	6.99	6.60	5.24	5.96	4.10	7.08	7.39	6.36	5.32
	SD	(5.20)	(4.84)	(4.85)	(4.71)	(4.39)	(4.45)	(5.29)	(4.57)	(4.72)	(4.78)	(4.41)	(4.57)
情報	mean	5.82	5.64	7.76	6.91	7.38	5.93	6.01	4.50	7.05	6.80	6.41	6.67
	SD	(5.01)	(5.11)	(4.99)	(4.80)	(4.56)	(4.65)	(5.25)	(4.74)	(4.79)	(4.75)	(4.51)	(4.76)

注: 各科目で平均値が高い上位3タイプに網掛け

図表12-14 中学生男女別にみた各科目を「好き」と回答した者の興味(A検査)各尺度の平均値(mean)と標準偏差(SD)

科目	中学生男子						中学生女子					
	R	I	A	S	E	C	R	I	A	S	E	C
国語	7.75 (5.08)	6.68 (5.06)	6.14 (4.55)	5.63 (4.27)	7.06 (4.63)	5.27 (4.47)	3.31 (3.94)	3.92 (4.44)	8.68 (4.93)	8.44 (4.71)	6.53 (4.36)	5.31 (4.49)
古典	7.89 (5.04)	7.87 (5.34)	6.55 (4.62)	5.85 (4.31)	7.39 (4.74)	5.60 (4.65)	3.76 (4.14)	5.33 (4.85)	9.48 (4.96)	8.25 (4.82)	6.99 (4.59)	5.66 (4.61)
世界史	7.91 (5.04)	7.36 (5.17)	6.05 (4.46)	5.51 (4.17)	7.23 (4.56)	5.25 (4.42)	3.76 (4.10)	5.35 (4.86)	9.13 (5.02)	8.30 (4.77)	6.96 (4.56)	5.62 (4.73)
日本史	7.82 (5.00)	7.03 (5.06)	5.85 (4.46)	5.40 (4.19)	7.04 (4.55)	5.31 (4.45)	3.40 (3.96)	4.83 (4.74)	8.90 (4.98)	8.28 (4.78)	6.79 (4.53)	5.54 (4.60)
地理	8.13 (5.05)	6.96 (5.09)	5.83 (4.49)	5.42 (4.16)	6.92 (4.46)	5.53 (4.48)	3.69 (3.96)	4.64 (4.52)	8.59 (4.88)	8.55 (4.63)	6.78 (4.33)	5.58 (4.72)
政治・経済	7.85 (5.14)	8.03 (5.48)	6.23 (4.65)	5.73 (4.33)	7.75 (4.65)	6.33 (4.78)	3.63 (3.96)	5.21 (4.89)	8.68 (5.02)	8.49 (4.89)	7.77 (4.59)	6.72 (4.91)
現代社会	8.04 (5.11)	7.35 (5.30)	6.41 (4.68)	5.71 (4.25)	7.64 (4.60)	5.86 (4.62)	3.60 (3.94)	4.67 (4.76)	8.63 (5.00)	8.91 (4.92)	7.40 (4.70)	6.16 (4.85)
数学	7.86 (4.96)	6.59 (5.03)	5.53 (4.39)	5.08 (4.03)	6.68 (4.42)	5.65 (4.45)	3.47 (3.94)	4.20 (4.57)	8.27 (4.92)	8.39 (4.62)	6.57 (4.34)	5.96 (4.74)
理科	8.13 (5.02)	7.20 (5.10)	5.57 (4.40)	5.06 (4.06)	6.55 (4.43)	5.14 (4.32)	3.69 (4.10)	4.99 (4.83)	8.73 (5.03)	8.26 (4.80)	6.50 (4.45)	5.33 (4.58)
物理	8.59 (5.06)	8.18 (5.18)	5.88 (4.46)	5.33 (4.16)	6.89 (4.41)	5.52 (4.43)	4.47 (4.39)	6.59 (5.19)	9.63 (4.95)	8.90 (4.95)	7.14 (4.66)	5.97 (4.98)
化学	8.46 (5.03)	7.81 (5.10)	5.80 (4.41)	5.26 (4.15)	6.71 (4.39)	5.34 (4.37)	4.17 (4.21)	6.10 (4.93)	9.23 (5.08)	8.52 (4.76)	6.84 (4.58)	5.75 (4.72)
生物	8.48 (5.08)	7.46 (5.03)	5.82 (4.44)	5.41 (4.21)	6.67 (4.46)	4.88 (4.20)	3.93 (4.15)	5.14 (4.72)	9.08 (5.02)	8.62 (4.81)	6.72 (4.45)	5.22 (4.52)
地学	8.58 (5.13)	8.49 (5.35)	6.21 (4.60)	5.69 (4.26)	7.05 (4.59)	5.63 (4.49)	4.73 (4.53)	6.60 (5.30)	9.74 (5.01)	8.87 (4.82)	7.27 (4.83)	5.98 (4.99)
英語	7.66 (4.98)	6.45 (5.01)	5.93 (4.53)	5.42 (4.18)	7.19 (4.59)	5.60 (4.60)	3.11 (3.78)	3.80 (4.34)	8.33 (4.89)	8.36 (4.63)	6.58 (4.36)	5.34 (4.52)
音楽	7.66 (5.14)	6.04 (4.96)	6.34 (4.60)	5.63 (4.27)	6.94 (4.57)	4.87 (4.35)	3.20 (3.87)	3.60 (4.22)	8.44 (4.83)	8.27 (4.64)	6.36 (4.31)	5.04 (4.45)
美術	8.27 (5.04)	6.46 (5.00)	6.66 (4.65)	5.48 (4.29)	6.91 (4.51)	4.82 (4.25)	3.40 (3.93)	3.92 (4.36)	9.30 (4.80)	7.95 (4.68)	6.44 (4.36)	4.79 (4.29)
工芸	9.00 (5.03)	6.84 (5.07)	6.47 (4.61)	5.53 (4.35)	6.91 (4.48)	4.84 (4.21)	3.91 (4.09)	4.19 (4.42)	9.41 (4.76)	8.27 (4.72)	6.73 (4.46)	4.91 (4.43)
書道	8.10 (5.02)	6.76 (5.01)	6.51 (4.58)	6.03 (4.37)	7.10 (4.49)	5.58 (4.54)	3.40 (3.91)	3.82 (4.26)	8.47 (4.86)	8.49 (4.69)	6.60 (4.35)	5.36 (4.51)
保健・体育	8.09 (5.04)	5.97 (4.88)	5.72 (4.43)	5.23 (4.16)	6.81 (4.51)	4.84 (4.28)	3.48 (3.98)	3.50 (4.12)	7.99 (4.74)	8.59 (4.57)	6.57 (4.29)	5.02 (4.42)
技術・家庭	8.51 (5.11)	6.44 (5.03)	5.96 (4.52)	5.32 (4.19)	6.70 (4.47)	5.17 (4.38)	3.50 (3.96)	3.76 (4.25)	8.55 (4.81)	8.60 (4.63)	6.51 (4.31)	5.30 (4.52)
情報	7.93 (4.92)	7.04 (5.22)	6.47 (4.68)	5.41 (4.22)	7.47 (4.63)	5.90 (4.58)	3.41 (3.90)	4.05 (4.49)	9.22 (4.92)	8.63 (4.85)	7.27 (4.47)	5.97 (4.73)

注:各科目について、平均値の高い上位3領域に網掛けをした。

図表12-15 高校生男女別にみた各科目を「好き」と回答した者の興味(A検査)各尺度の平均値(mean)と標準偏差(SD)

科目	高校生男子						高校生女子					
	R	I	A	S	E	C	R	I	A	S	E	C
国語	7.95 (5.08)	5.47 (4.72)	6.53 (4.66)	5.71 (4.41)	6.73 (4.58)	5.02 (4.42)	3.16 (3.90)	3.38 (4.20)	7.86 (4.95)	8.24 (4.66)	6.10 (4.44)	5.58 (4.67)
古典	7.81 (5.24)	6.64 (5.10)	6.80 (4.77)	6.27 (4.61)	7.15 (4.67)	5.58 (4.50)	3.59 (4.14)	4.46 (4.69)	8.17 (5.06)	8.32 (4.69)	6.32 (4.50)	5.91 (4.88)
世界史	8.05 (5.19)	6.16 (4.98)	6.25 (4.56)	5.42 (4.30)	6.82 (4.59)	5.01 (4.39)	3.50 (4.09)	4.73 (4.77)	8.25 (5.08)	8.17 (4.74)	6.44 (4.43)	5.63 (4.73)
日本史	7.88 (5.10)	6.00 (4.94)	6.08 (4.55)	5.55 (4.34)	6.86 (4.62)	5.01 (4.39)	3.46 (4.06)	4.39 (4.60)	7.99 (5.05)	8.11 (4.62)	6.29 (4.45)	5.76 (4.80)
地理	8.93 (5.02)	6.13 (5.02)	5.97 (4.47)	5.72 (4.32)	6.95 (4.58)	5.26 (4.42)	3.83 (4.17)	4.46 (4.74)	7.73 (4.94)	8.91 (4.65)	6.64 (4.52)	6.05 (4.90)
政治・経済	7.76 (5.23)	6.45 (5.09)	6.28 (4.62)	5.79 (4.49)	7.68 (4.85)	6.09 (4.81)	3.38 (4.06)	4.37 (4.61)	7.95 (5.06)	8.35 (4.71)	7.27 (4.77)	6.91 (5.18)
現代社会	8.47 (5.24)	5.93 (4.95)	6.18 (4.58)	5.85 (4.46)	7.16 (4.70)	5.42 (4.55)	3.37 (4.01)	3.82 (4.44)	7.55 (4.93)	8.80 (4.65)	6.61 (4.62)	6.07 (4.85)
数学	8.24 (5.05)	6.10 (4.98)	5.63 (4.40)	5.49 (4.30)	6.31 (4.49)	5.93 (4.55)	3.71 (4.11)	3.68 (4.47)	6.91 (4.65)	8.58 (4.67)	5.88 (4.32)	6.73 (5.00)
理科	8.87 (5.06)	6.84 (5.11)	5.85 (4.49)	5.50 (4.29)	6.27 (4.50)	5.37 (4.37)	4.08 (4.31)	4.92 (4.99)	7.84 (4.84)	8.59 (4.75)	6.19 (4.39)	5.85 (4.75)
物理	9.03 (5.01)	7.45 (5.17)	6.03 (4.58)	5.36 (4.34)	6.40 (4.59)	5.74 (4.47)	4.57 (4.51)	5.86 (5.34)	8.11 (4.80)	8.18 (4.69)	6.62 (4.42)	6.19 (5.01)
化学	8.68 (5.09)	7.40 (5.21)	5.89 (4.53)	5.47 (4.36)	6.43 (4.63)	5.69 (4.48)	4.31 (4.34)	6.11 (5.31)	8.10 (4.91)	8.36 (4.75)	6.43 (4.49)	6.35 (4.99)
生物	8.61 (5.05)	6.86 (5.13)	6.18 (4.59)	5.74 (4.38)	6.45 (4.62)	4.94 (4.30)	3.77 (4.17)	4.81 (4.89)	7.92 (4.99)	8.59 (4.76)	6.05 (4.39)	5.57 (4.67)
地学	9.06 (5.15)	8.09 (5.21)	6.50 (4.79)	5.77 (4.56)	6.96 (4.71)	5.68 (4.57)	4.21 (4.40)	6.32 (5.39)	8.72 (5.12)	8.33 (4.76)	6.74 (4.54)	5.87 (4.95)
英語	7.60 (5.17)	5.33 (4.78)	6.20 (4.57)	5.83 (4.43)	7.04 (4.69)	5.14 (4.48)	2.95 (3.71)	3.19 (4.10)	7.18 (4.76)	8.54 (4.53)	6.22 (4.41)	5.48 (4.69)
音楽	8.22 (5.17)	5.16 (4.73)	7.02 (4.57)	5.95 (4.43)	7.08 (4.57)	4.62 (4.30)	3.24 (3.90)	3.05 (4.00)	7.64 (4.82)	8.45 (4.62)	6.13 (4.31)	5.49 (4.67)
美術	8.52 (5.03)	5.40 (4.72)	7.43 (4.71)	5.57 (4.34)	6.84 (4.53)	4.46 (4.17)	3.52 (4.03)	3.53 (4.25)	9.03 (4.75)	7.86 (4.70)	6.31 (4.32)	5.06 (4.47)
工芸	9.54 (4.97)	5.74 (4.90)	6.90 (4.67)	5.54 (4.37)	6.69 (4.50)	4.65 (4.23)	4.32 (4.28)	3.84 (4.42)	8.99 (4.77)	8.22 (4.75)	6.60 (4.44)	5.32 (4.65)
書道	8.72 (5.08)	5.57 (4.83)	6.41 (4.68)	5.93 (4.39)	6.76 (4.54)	4.93 (4.34)	3.42 (3.99)	3.20 (4.13)	7.39 (4.83)	8.56 (4.58)	6.19 (4.43)	5.74 (4.77)
保健・体育	8.49 (5.05)	4.95 (4.64)	5.77 (4.44)	5.57 (4.28)	6.56 (4.48)	4.51 (4.22)	3.56 (4.07)	2.90 (3.92)	6.95 (4.68)	8.86 (4.60)	6.18 (4.36)	5.38 (4.61)
技術・家庭	9.23 (5.00)	5.53 (4.84)	6.39 (4.57)	5.75 (4.42)	6.65 (4.49)	5.00 (4.41)	3.61 (4.11)	3.07 (4.05)	7.58 (4.76)	8.57 (4.69)	6.15 (4.33)	5.56 (4.66)
情報	8.42 (5.09)	5.73 (4.89)	6.38 (4.56)	5.44 (4.39)	6.65 (4.59)	6.22 (4.59)	3.53 (4.14)	3.23 (4.22)	7.74 (4.93)	8.21 (4.69)	6.16 (4.41)	7.14 (4.89)

注:各科目で平均値が高い上位3タイプに網掛け

12-4 まとめ

本章では、中学生、高校生が学校で学ぶ授業の科目の好き嫌いとは職業レディネス・テストで測定される興味の領域への反応との関連を検討した。

好きな科目、嫌いな科目の素集計の結果をみると、中学生、高校生、男女別により好きな科目に違いは見られるが、概ね、保健・体育、技術・家庭科と音楽、美術の人気は全般に高い。

なお、科目の好き嫌いには男女差が大きく、男子は理数系や歴史の人気の比較的高いが、女子は英語や国語など文科系の科目の人気の高いようである。

A検査の職業興味の6領域のタイプ別に好きな科目との関連をみた結果では、6領域の特徴をほぼ反映するような結果が得られた。すなわち物作りや身体作業に領域に関心の高いRタイプでは、保健・体育や技術・家庭という実技系の科目の他、理科など技術系の仕事に関連の高い科目への興味が見られた。研究や知的活動に関心の高いIタイプでは、どのタイプでの人気の高い科目の他に、理科、化学、数学、生物などへの興味が見られた。Iタイプと理数系の科目の関連が高かった理由としては、職業レディネス・テストのIタイプの項目には理数系の職業が多く含まれていることにも関連すると思われる。対人的な活動に関心の高いSタイプでは、女子において中学生、高校生の両方で、保健・体育、技術・家庭、音楽への興味との関連が高く見られた。男子に関してはあまり明確な傾向は見られない。企画、運営に関連する活動に関心の高いEタイプでは、男子では日本史、女子では英語への興味との関連が見られた。定型的で秩序立った作業に関心が高いCタイプでは、数学と情報への興味との関連が高かった。

科目別に、職業興味の6領域の平均値を算出した結果では、男女別にみると、6領域に関するもともとの平均値の大きさが影響して、科目との関連では明確な結果は得られなかった。つまり、中学生の場合、男子ではどんな科目でもR I E尺度への平均値が高くなり、女子の場合には、A S E尺度への平均値が高くなる。そこで全体的な平均値をみると、概ね、理数系の科目への関心はI領域、社会系の科目への関心はE領域、その他の科目はA領域の平均値が高いという結果となっている。I領域とE領域については尺度の特徴と関連がありそうだ。

高校の場合においても、科目の好き嫌いにかかわらず、職業興味の6領域における平均値の男女差の影響がみられた。男子ではR、I、E、A領域への平均値が全般に高い。また女子では、A、S、E、C領域への関心が高くなっていた。ただ、男女あわせた全体でみると各科目の内容や印象と各タイプの興味関心がよく一致した。すなわち、物理とRタイプ、地学とIタイプ、美術とAタイプ、政治・経済とEタイプ、情報とCタイプなどである。

以上、職業レディネス・テストの興味検査を中心として、中学生、高校生の科目の好き嫌いとの関連を検討した結果、中学生、高校生全般に人気の高い特定の科目があることがわかった。その一方で、興味の6領域に対する生徒の関心の方向と、学校で学ぶ科目の内容にはある程度解釈可能な妥当な関連が見出された。

第13章 進路決定度、希望職業の有無と分化度との関連の検討

13-1 本章の目的

標準化調査では、回答用紙の最後にアンケートとして、将来の進路についての意思決定の度合いと、将来の仕事についての意思決定の度合いを4段階で選ばせる項目を入れた。この項目への回答は、生徒自身が自分の進路や将来の仕事についての準備度を自己評価した結果である。

ところで、ホルランドの理論に従えば、職業興味の最も高い領域と最も低い領域の差を分化度と定義し、分化度が高いほど、職業意識の発達が進んでいるとされる。職業興味の分化度が学年、男女という属性に関連してどう変化するかについては本報告書の第9章で別途検討したが、本章では、アンケート項目への回答結果を使って、生徒自身の職業意識の認識のレベルと分化度がどう関連するのかを検討したい。

本章では、まず、将来の進路決定度と希望職業の決定度についての回答結果を概観し、中学生、高校生の将来への準備に関する自己評価の様相を理解する。続いて、分化度との関連を調べる。

13-2 分析対象

調査の方法は第3章「標準化調査の概要」に準ずる。本章では中学生と高校生の全体のデータを取り上げた。分析の対象とした生徒の内訳は下記の通りである。

標準化調査に協力した全国38校の中学1年～3年生および62校の高等学校の1年生～3年生。

人数の内訳は以下の通り。中学生計10,966名（1年男子1,905名、1年女子1,816名、2年男子1,825名、2年女子1,791名、3年男子1,866名、3年女子1,763名）。高校生計17,104名（1年男子3,244名、1年女子3,175名、2年男子3,185名、2年女子3,399名、3年男子1,980名、3年女子1,979名）。

13-3 分析方法と結果

<調査項目>

本章でとりあげた項目は、問題用紙の最後にアンケートとして添付されている項目のうちの2つである。内容は以下の通りである。

①アンケート設問：「進路についての決定度」

「あなたは、将来の進路についてどのくらい考えていますか？回答欄の中から一つだけ選

んで○をつけてください。」

選択肢：(1) 希望する進路が決まっている、(2) だいたい決まっている、(3) まだあまり決まっていない、(4) 全く決まっていない

②アンケート設問：「仕事についての検討」

「将来の仕事について、どのくらい考えていますか？回答欄の中から一つだけ選んで○をつけてください。」

選択肢：(1) よく考えている、(2) だいたい考えている、(3) あまり考えていない、(4) 全く考えていない

13-3-1 アンケート回答の素集計

中学校における各設問への回答者数の割合を図表 13-1 に、高校生における各設問への回答者数の割合を図表 13-2 に示す。

図表13-1 中学生における各設問への回答の割合(%)

生徒総数	中学生												
	1年生			2年生		3年生		学年別			男女別		全体
	男子	女子	n	男子	女子	男子	女子	1年	2年	3年	男子	女子	
n=1905	n=1816	n=1825	n=1791	n=1866	n=1763	n=3721	n=3616	n=3629	n=5596	n=5370	n=10966		
Q22 将来の進路について一つだけ選んで○	n=1888	n=1806	n=1816	n=1788	n=1855	n=1761	n=3694	n=3604	n=3616	n=5559	n=5355	n=10914	
希望する進路が決まっている	21.8	17.8	12.6	12.5	17.6	16.6	19.8	12.5	17.2	17.4	15.6	16.5	
だいたい決まっている	34.8	35.8	34.7	38.8	40.5	42.1	35.3	36.7	41.3	36.6	38.9	37.7	
まだあまり決まっていない	31.0	36.3	38.6	38.7	33.5	35.0	33.6	38.6	34.2	34.3	36.7	35.5	
全く決まっていない	12.5	10.1	14.2	10.1	8.4	6.3	11.3	12.1	7.4	11.7	8.8	10.3	
Q23 将来の仕事について一つだけ選んで○	n=1889	n=1809	n=1816	n=1788	n=1856	n=1760	n=3698	n=3604	n=3616	n=5561	n=5357	n=10918	
よく考えている	30.7	29.9	21.6	21.9	22.9	24.3	30.3	21.7	23.6	25.1	25.4	25.2	
だいたい考えている	37.9	42.2	37.0	42.3	37.2	41.0	40.0	39.6	39.1	37.4	41.9	39.6	
あまり考えていない	23.5	23.8	32.9	30.1	30.7	30.2	23.6	31.5	30.4	28.9	28.0	28.5	
全く考えていない	8.0	4.1	8.6	5.7	9.2	4.6	6.1	7.2	6.9	8.6	4.8	6.7	

図表13-2 高校生における各設問への回答の割合(%)

生徒総数	高校生											
	1年生		2年生		3年生		学年別			男女別		全体
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	1年	2年	3年	男子	女子	
n=3244	n=3317	n=3185	n=3399	n=1980	n=1979	n=6561	n=6584	n=3959	n=8409	n=3695	n=17104	
Q22 将来の進路について一つだけ選んで○	n=3220	n=3306	n=3168	n=3387	n=1951	n=1966	n=6526	n=6555	n=3917	n=8339	n=8656	n=16988
希望する進路が決まっている	13.8	15.5	13.5	16.2	29.2	31.9	14.6	14.9	30.6	17.3	19.5	18.4
だいたい決まっている	31.5	37.7	33.8	39.0	40.4	40.9	34.7	36.5	40.6	34.5	39.0	36.8
まだあまり決まっていない	40.1	36.9	40.1	35.0	24.2	22.5	38.5	37.5	23.3	36.4	32.9	34.6
全く決まっていない	14.6	9.9	12.6	9.7	6.2	4.7	12.2	11.1	5.4	11.9	8.7	10.2
Q23 将来の仕事について一つだけ選んで○	n=3221	n=3307	n=3169	n=3390	n=1953	n=1967	n=6528	n=6559	n=3920	n=8343	n=8664	n=17007
よく考えている	24.0	28.0	24.6	29.7	36.5	42.1	26.0	27.2	39.3	27.2	31.8	29.5
だいたい考えている	35.1	41.6	37.7	42.2	38.9	39.8	38.4	40.0	39.3	37.0	41.4	39.2
あまり考えていない	31.5	25.3	30.2	24.0	20.3	15.9	28.4	27.0	18.1	28.4	22.7	25.5
全く考えていない	9.4	5.1	7.6	4.2	4.3	2.2	7.3	5.8	3.2	7.5	4.1	5.8

(1)中学生、高校生、学年別男女別にみた進路決定度と希望職業の有無

①中学生の学年別男女別にみた進路決定度

進路決定度について、中学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表 13-3)。

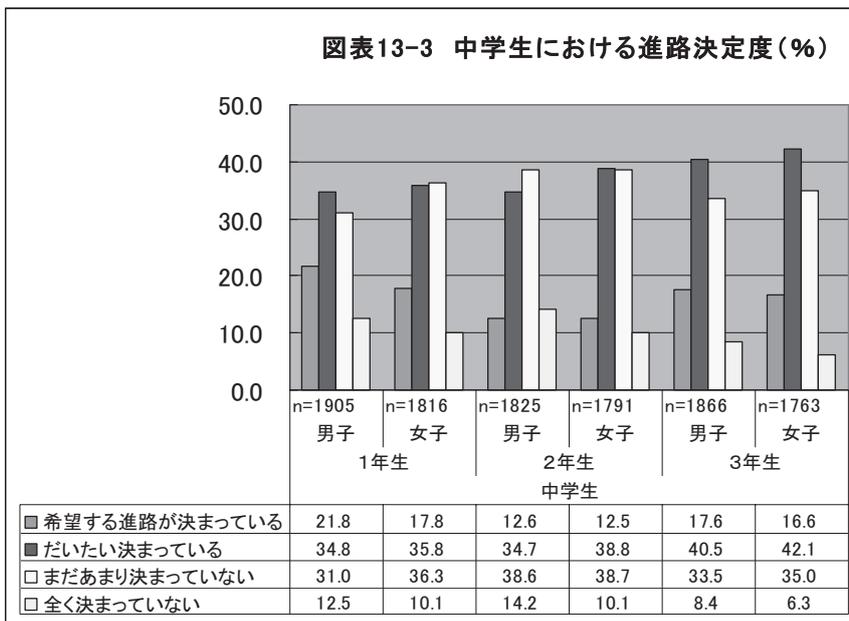
中学1年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で56.6%、女子で53.6%と男子がやや多い。

中学2年生では、将来

の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で47.3%、女子で51.3%と1年生に比べると男子が9.3ポイント、女子が2.3ポイント下がっている。

中学3年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で58.1%、女子で58.7%と2年生に比べると男子10.8ポイント、女子7.4ポイント高くなっている。

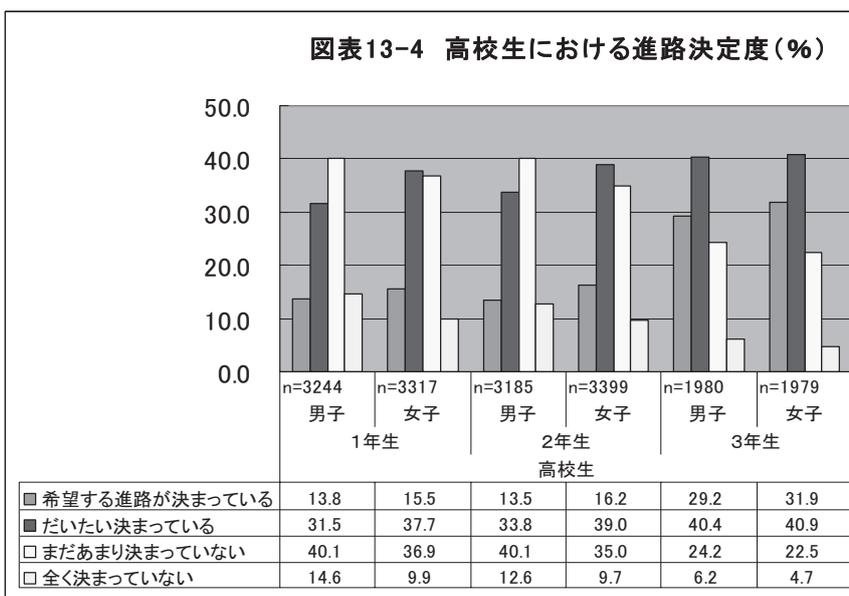
2年生で低くなり3年生で高くなる傾向が示され、2年生の男子に特に進路意志決定が低くなる傾向が現れている。



②高校生の学年別男女別にみた進路決定度

進路決定度について、高等学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表 13-4)。

高校1年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で45.3%、女子で53.2%と女子が7ポイント近く高い。



高校2年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で47.3%、女子で55.2%と1年生に比べると男女ともに若干ではあるが2ポイント上がっている。

高校3年生では、将来の進路について、「決まっている」と回答した生徒は「だいたい決まっている」を含めると男子で69.6%、女子で72.8%と2年生に比べると男子で22.3ポイント、女子が17.6ポイント高くなっている。高校では1年生から2年生、と若干高くなり3年生で大きく進路意志決定が明確になる。また、1年から3年を通して、男子よりも女子が高い傾向を示した。

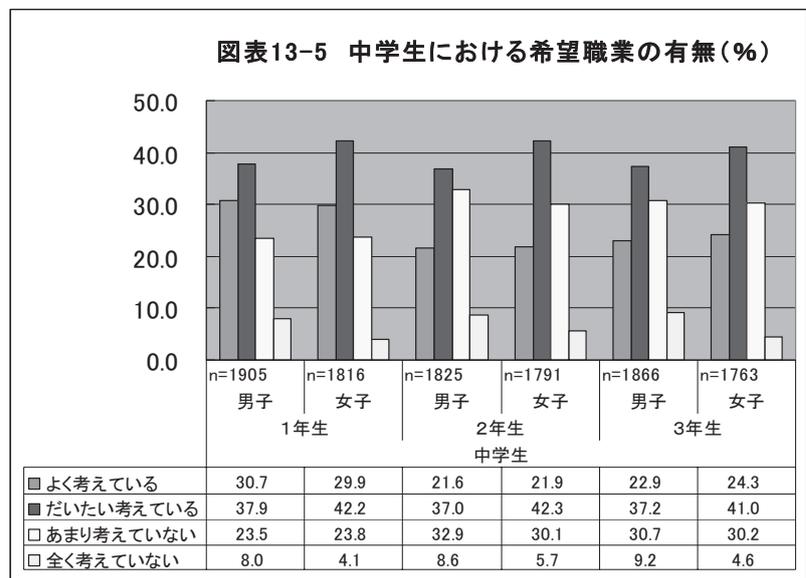
③中学生の学年別男女別にみた希望職業の有無

希望職業の有無について、中学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表13-5)。

中学1年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で68.6%、女子で72.1%と女子がやや多い。

中学2年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で58.6%、女子で64.2%と1年生に比べると男女ともに8～10ポイント下がっている。

中学3年生では、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で60.1%、女子で65.3%と2年生に比べると男女ともに1～2ポイント程度上がり、1年生で高く2年生で低くなり3年生でやや高めに持ち直すといった結果となった。また、1年から3年を通して、男子よりも女子が高い傾向を示し、2年生の男子に特に仕事に対する関心が低くなる傾向が現れている。



④高校生 of 学年別男女別にみた希望職業の検討

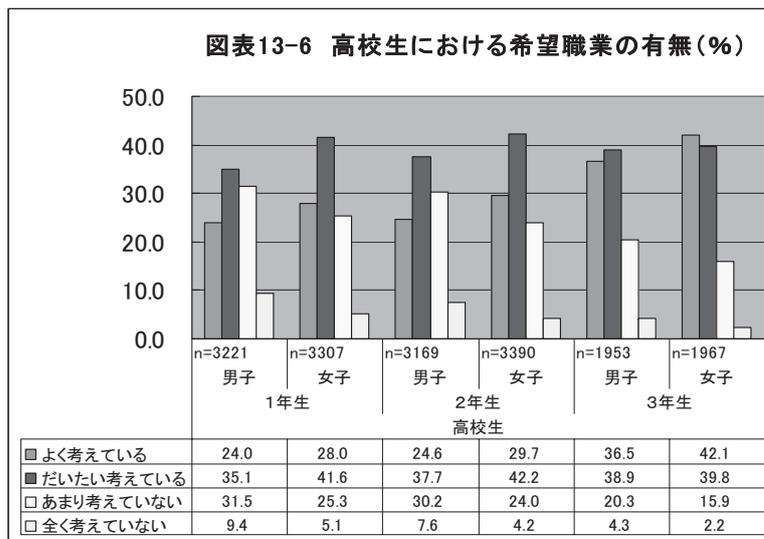
希望職業の有無について、高等学校学年別男女別に回答者の割合をグラフにした(図表13-6)。

高校1年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で59.1%、女子で69.6%と女子が10ポイント以上高い。

高校2年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で62.3%、女子で71.9%と1年生に比べると男女ともに約2～3ポイント上がっている。

高校3年生では、将来の仕事について、「考えている」と回答した生徒は「だいたい考えている」を含めると男子で75.4%、

女子で81.9%と2年生に比べると男子で13.1ポイント、女子が10ポイント高くなっている。高校では1年生から2年生、と若干高くなり3年生で大きく希望職業が明確になる。また、中学生と同様に1年から3年を通して、男子よりも女子が高い傾向を示した。



13-3-2 進路決定度における学年と男女差の検討

(1) 分析方法

将来の進路についての回答項目から、「決まっている」を4点、「ほぼ決まっている」を3点、「まだあまり決まっていない」を2点、「全く決まっていない」を1点として進路決定度の尺度として得点化し、この尺度得点の平均値について、学年、性別の影響を検証するために、学年要因（1学年、2学年、3学年：3水準）、性別要因（男・女）からなる2要因の分散分析を行った。

(2) 中学生の結果

中学生の進路決定度における平均値と標準偏差を図表 13-7 に示す。

中学生については、学年の主効果は有意となったが ($F=43.62, p<0.0001$)、性別の主効果には有意差が認められなかった ($F=0.99, N.S.$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、3年 2.68、1年 2.64、2年 2.50 の順で平均得点に有意な差が認められた。学年と性別の関連では、交互作用は有意となり ($F=4.66, p<0.01$)、男子では3年 2.67 と1年 2.66 に差がなく、いずれも2年 2.46 よりも高い ($F=32.65, p<0.0001$)。女子では、3年 2.69、1年 2.61、2年 2.54 の順で平均得点に有意な差が認められた ($F=14.70, p<0.0001$)。学年ごとの男女差についての t 検定の結果では、1年生では男女間の差はなく ($t=1.51, N.S.$)、2年生では女子 2.54 が男子 2.46 よりも有意に大きく ($t=-2.76, p<.01$)、3年生では男女間の差がない ($t=-0.66, N.S.$) といった結果となった。

図表13-7 中学生における進路決定度に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

進路	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=1888	女子 n=1806	男子 n=1816	女子 n=1788	男子 n=1855	女子 n=1761	1年生 n=3694	2年生 n=3604	3年生 n=3616	男子 n=5559	女子 n=5355
MEAN	2.66	2.61	2.46	2.54	2.67	2.69	2.64	2.50	2.68	2.60	2.61
SD	(0.95)	(0.89)	(0.89)	(0.84)	(0.86)	(0.82)	(0.92)	(0.86)	(0.84)	(0.91)	(0.85)

(3) 高校生の結果

高校生の進路決定度についての平均値と標準偏差を図表 13-8 に示す。

高校生については、学年の主効果は有意となり ($F=364.35, p<0.0001$)、性別の主効果も同様に有意となった ($F=85.96, p<0.0001$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、3年 2.96、2年 2.55、1年 2.52 の順で平均得点に学年間で有意な差が認められた。性別については、女子 2.69 が男子 2.57 よりも有意に高いことが確認できた。学年と性別の関連では、交互作用には有意差が得られなかった ($F=2.09, N.S.$)。

図表13-8 高校生における進路決定度に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

進路	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=3220	女子 n=3306	男子 n=3168	女子 n=3387	男子 n=1951	女子 n=1966	1年生 n=6526	2年生 n=6555	3年生 n=3917	男子 n=8339	女子 n=8659
MEAN	2.44	2.59	2.48	2.62	2.93	3.00	2.52	2.55	2.96	2.57	2.69
SD	(0.90)	(0.87)	(0.88)	(0.87)	(0.88)	(0.86)	(0.89)	(0.88)	(0.87)	(0.91)	(0.91)

13-3-3 希望職業の有無における学年と男女差の検討

(1) 分析方法

将来の仕事についての回答項目から、「よく考えている」を4点、「だいたい考えている」を3点、「あまり考えていない」を2点、「全く考えていない」を1点として希望職業の有無の尺度として得点化し、この尺度得点の平均値について、学年、性別の影響を検証するために、学年要因(1学年、2学年、3学年:3水準)、性別要因(男・女)からなる2要因の分散分析を行った。

(2) 中学生の結果

中学生の希望職業の有無に関する平均値と標準偏差を図表 13-9 に示す。

中学生については、学年の主効果は有意となり ($F=46.92, p<0.0001$)、性別の主効果も同様に有意となった ($F=27.99, p<0.0001$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、1年 2.95 が2年 2.76、3年 2.79 よりも有意に高く、2年と3年の平均得点の差には有意差が認められなかった。性別については、女子 2.88 が男子 2.79 よりも有意に高いことが確認できた。学年と性別の関連では、交互作用は有意差が得られなかった ($F=0.60, N.S.$)。

図表13-9 中学生における希望職業の有無に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

職業	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=1889	女子 n=1809	男子 n=1816	女子 n=1788	男子 n=1856	女子 n=1760	1年生 n=3698	2年生 n=3604	3年生 n=3616	男子 n=5561	女子 n=5357
MEAN	2.91	2.98	2.72	2.80	2.74	2.85	2.95	2.76	2.79	2.79	2.88
SD	(0.92)	(0.84)	(0.90)	(0.84)	(0.91)	(0.84)	(0.88)	(0.87)	(0.88)	0.92	0.84

(3) 高校生の結果

高校生の希望職業の有無に関する平均値と標準偏差を図表 13-10 に示す。

高校生については、学年の主効果は有意となり ($F=173.04, p<0.0001$)、性別の主効果も同様に有意となった ($F=171.81, p<0.0001$)。学年の各水準間について多重比較を行ったところ、3年 3.15、2年 2.89、1年 2.83 の順で平均得点に学年間で有意な差が認められた。性別については、女子 3.01 が男子 2.69 よりも有意に高いことが確認できた。学年と性別の関連では、交互作用には有意差が得られなかった ($F=1.01, N.S.$)。

図表13-10 高校生における希望職業の有無に関する平均値(MEAN)と標準偏差(SD)

職業	1年生		2年生		3年生		学年計			男女計	
	男子 n=3221	女子 n=3307	男子 n=3169	女子 n=3390	男子 n=1953	女子 n=1967	1年生 n=6528	2年生 n=6559	3年生 n=3920	男子 n=8343	女子 n=8664
MEAN	2.74	2.92	2.79	2.97	3.08	3.22	2.83	2.89	3.15	2.69	3.01
SD	(0.93)	(0.86)	(0.90)	(0.84)	(0.86)	(0.79)	(0.90)	(0.87)	(0.83)	(0.88)	(0.84)

13-3-4 進路決定度、希望職業の有無と A 検査、B 検査、C 検査との分化度の関連

(1) 進路決定度、希望職業の有無と A 検査の分化度との関連

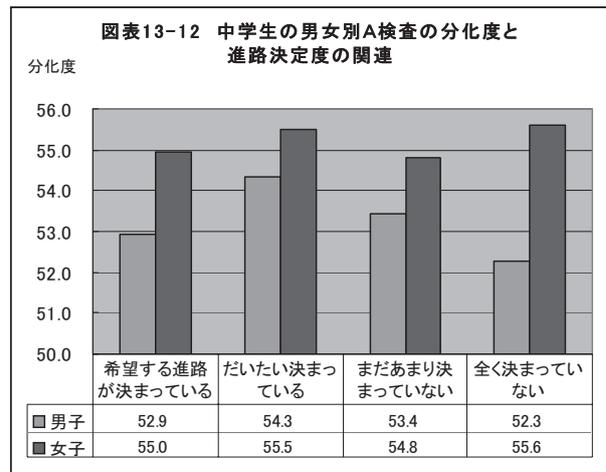
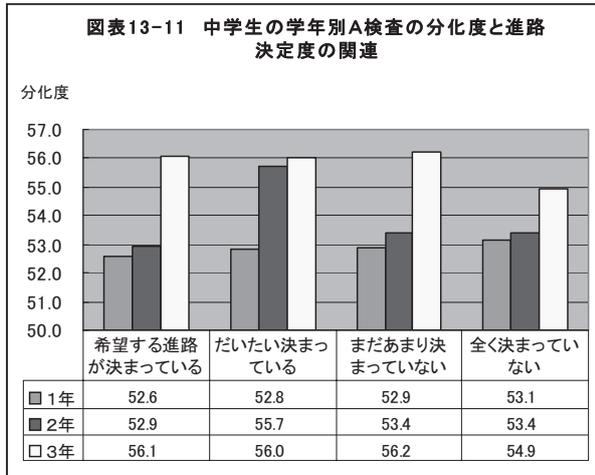
A 検査の興味の 6 領域の中で最も高いパーセンタイル順位と最も低いパーセンタイル順位の差を分化度として算出し、進路決定度と希望職業の有無との関連について中高別、学年別、性別から考察した。

①進路決定度と分化度の学年による変化

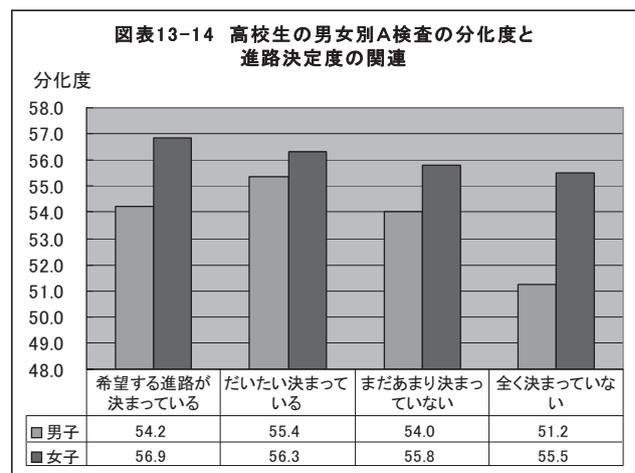
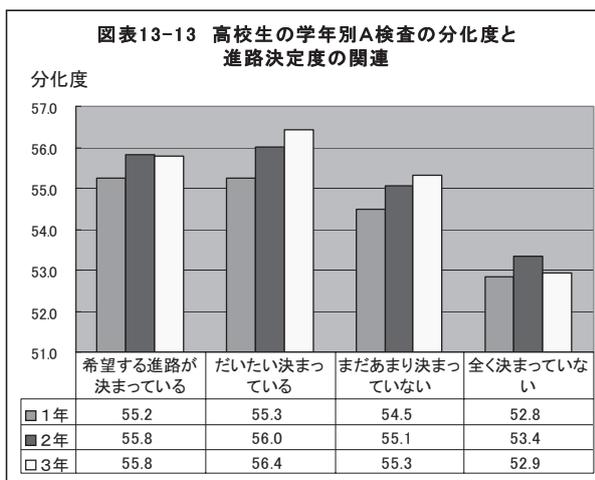
中学生について進路決定度の学年間で比較すると、どの回答に対しても 1、2 年生に比べて 3 年生の分化度が高い。中学生では学年の進行と共に分化度が増加し、職業に対する認識が急速に高まる中学生の時期に、職業興味の発達が進んでいくと解釈することができる。

決定度との関連をみると、「進路が決まっている」と答えた生徒では 3 年生の分化度が一番高い (図表 13-11)。「全く決まっていない」や「まだあまり決まっていない」も同様に 3 年生が最も高いが、「だいたい決まっている」と回答した生徒では 2 年生の分化度が高くなっており、3 年とほぼ同程度である。1 年生では回答と分化度に明確な関連がみられないが、2 年生では分化度が高い場合は、「だいたい決まっている」という回答をしている (図表 13-11)。

男女間では女子の方が分化度は大きく職業興味が明確であると考えられる（図表 13-12）。



高校生については、「希望する進路が決まっている」と「だいたい決まっている」という回答を選択した者が、「まだあまり決まっていない」、「全く決まっていない」を選択した者に比べて分化度が全般に高いようである。学年ごとに見ると全ての学年で「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」に向かって分化度は増加している（図表 13-13）。全般的に分化度は学年と共に上昇しているが、「希望する進路が決まっている」の分化度が全ての学年で最も高い値にはならなかった。「だいたい決まっている」が全ての学年で最も分化度が高くなり、「希望する進路が決まっている」を選んだ生徒は必ずしも分化度が高いわけではないといった結果となった。高校生においても中学生と同様に「だいたい決めている」と回答した生徒に分化度が高い傾向がある。男女間では女子の方が分化度は大きく職業興味が明確であると考えられる（図表 13-14）。

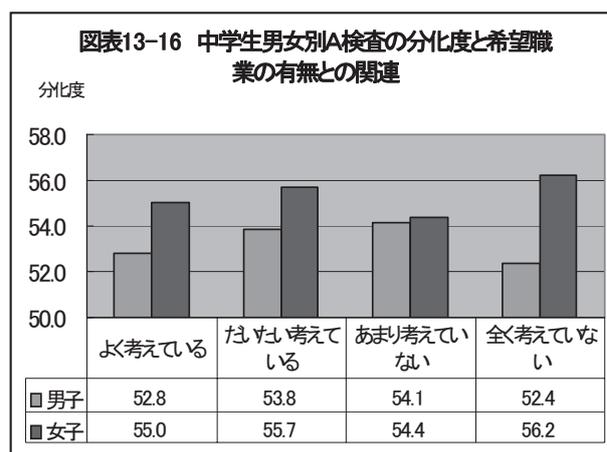
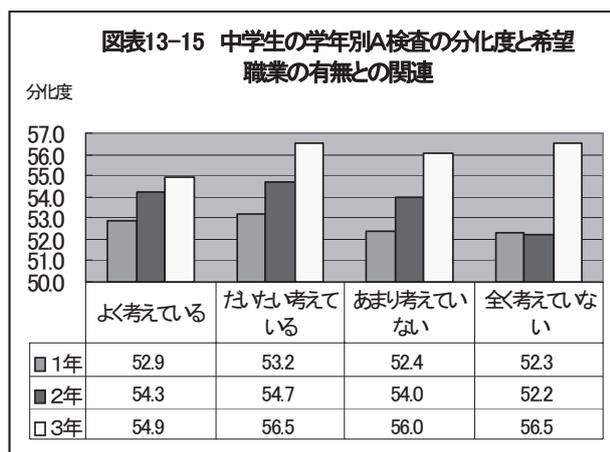


②希望職業の有無と分化度の学年による変化

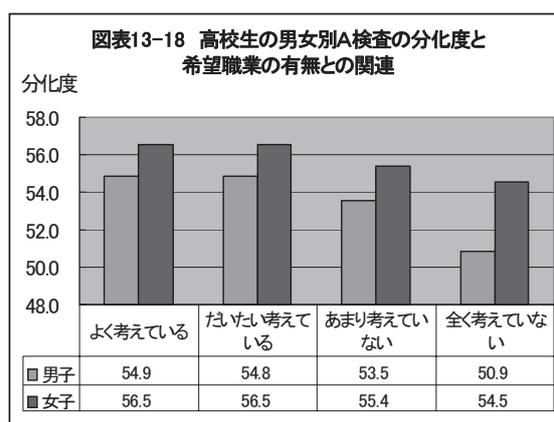
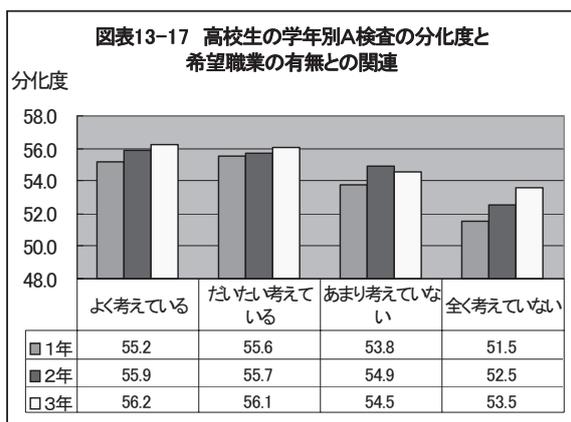
中学生について希望職業の有無と各学年の関連を見ると、将来の仕事について「だいたい

考えている」と回答した生徒の分化度は全ての学年で最も高い値を示している(図表 13-15)。

「よく考えている」の回答は必ずしも分化度が高いとは言えず、3年では回答項目の中で最も分化度が低くなっている。中学3年で将来の仕事をよく考えていると答えている生徒は職業興味の分化度が低く、仕事に対する好き嫌いが明確になっていない状況で少ない職業情報の中で断定的に職業選択を行っているのではないかと推測される。1、2年生では「全く考えていない」から「だいたい考えている」に向かって分化度が増加傾向を示しているが、3年生では「全く考えていない」と「だいたい考えている」が最も高い値となっている。中学3年生にとって目前に迫った高校選択や受験が進路選択の重要な課題であり、希望職業の有無と分化度との関連性は認められない結果となった。中学校での進路指導において1、2年生での職業調べや職業体験の実践や3年生での受験指導の現状が実態として現れていると考えることができる。男女間では女子の方が分化度は大きく希望職業が明確であると考えられる(図表 13-16)。



高校生について希望職業の有無と学年間の変化を見ると、将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで、1年から3年へと分化度は増加している(図表 13-17)。1年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも高くはないが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。高校生では将来の仕事についてよく考えているほど、学年が進むほど職業興味の分化度が高い傾向にあることがわかる。これにより高校生では、職業興味の成熟を表している分化度が、希望職業の有無の明確さと一致していることが確認できた。分化度が学年と共に高まり、将来の職業についてよく考えている生徒ほど分化度が高くなると言える。男女間では、中学生と同様に、女子の方が分化度は大きく希望職業が明確であると考えられる(図表 13-18)。

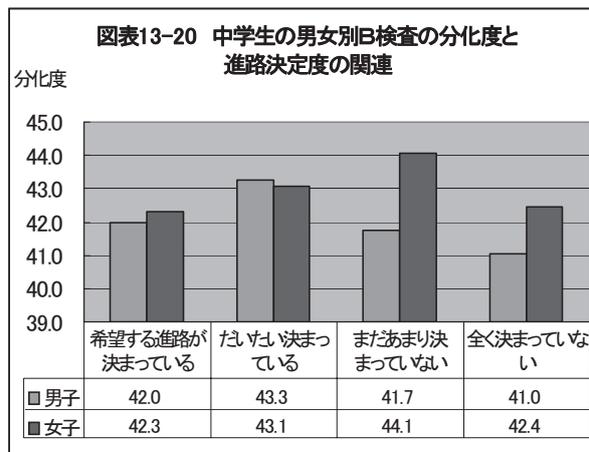
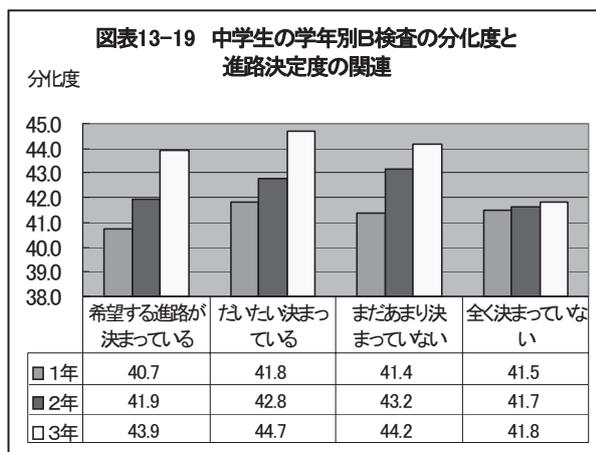


(2) 進路決定度、希望職業の有無とB検査の分化度との関連

B検査の基礎的志向性のD：対情報関係志向、P：対人関係志向、T：対物関係志向の中で最も高いパーセンタイル順位と最も低いパーセンタイル順位の差を分化度として算出し、進路決定度と希望職業の有無との関連について中高別、学年別、性別から考察した。

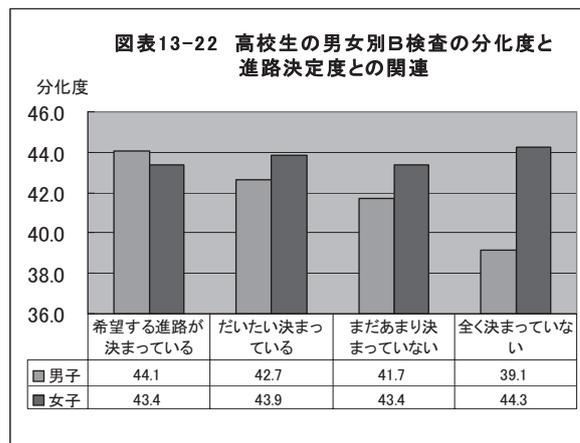
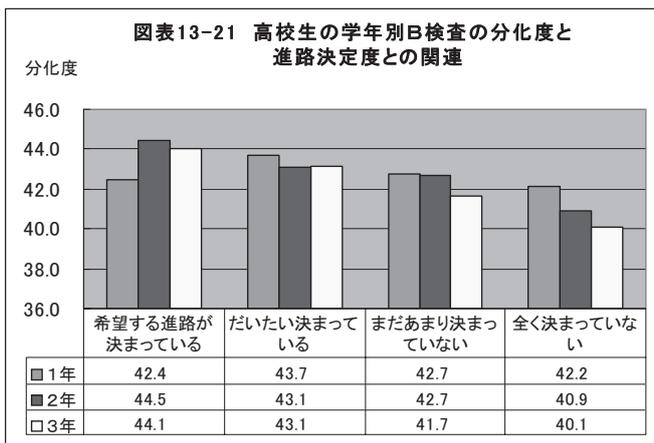
①進路決定度と分化度の学年による変化

中学生について進路決定度の学年間の変化を見ると、「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」まで、1年から3年へと分化度は増加している（図表13-19）。「希望する進路が決まっている」が低い分化度であるが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。基礎的志向性の分化度では、学年進行と共に将来の進路がだいたい決まっている生徒が高くなり、決まっていない生徒の分化度が低くなる傾向にある。男女間では特に分化度の差に明確な違いは認められなかった（図表13-20）。



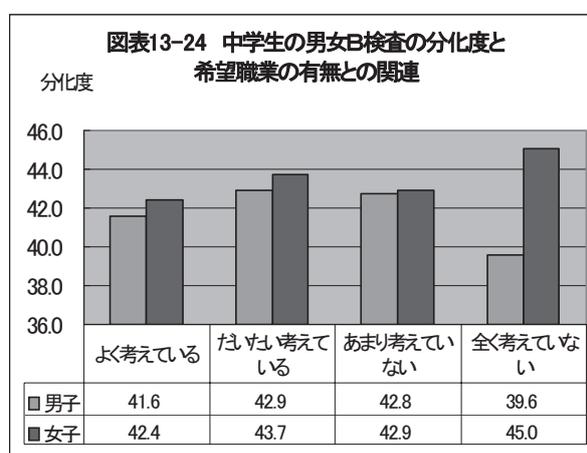
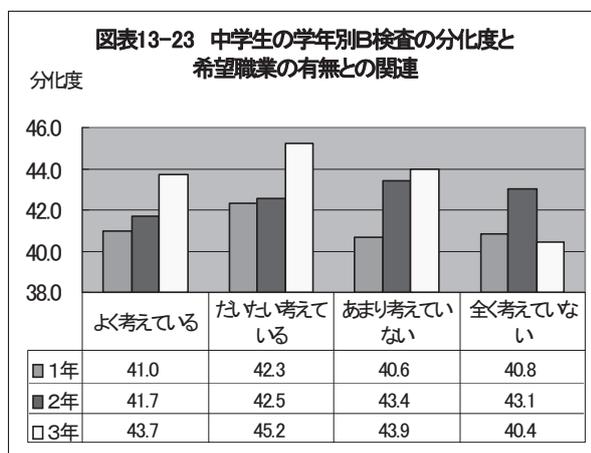
高校生について、進路決定度の学年間の変化を見ると、各学年間では特に明確な差は認められないが、2年生、3年生では「全く決まっていない」から「希望する進路が決まってい

る」まで分化度は高くなっていき、基礎的志向性の分化度は将来の進路決定度と一致することが分かった（図表 13-21）。1 年生では中学生と同様に「希望する進路が決まっている」が低い分化度であり、「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」へと分化度は増加している。男女別では、女子については進路決定度の「全く決まっていない」から「決まっている」までの分化度に差がみられない。男子については、進路が決まっているという回答ほど、分化度は高くなった（図表 13-22）。

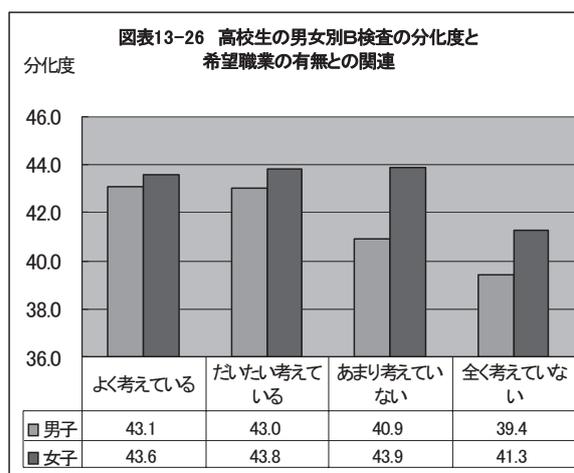
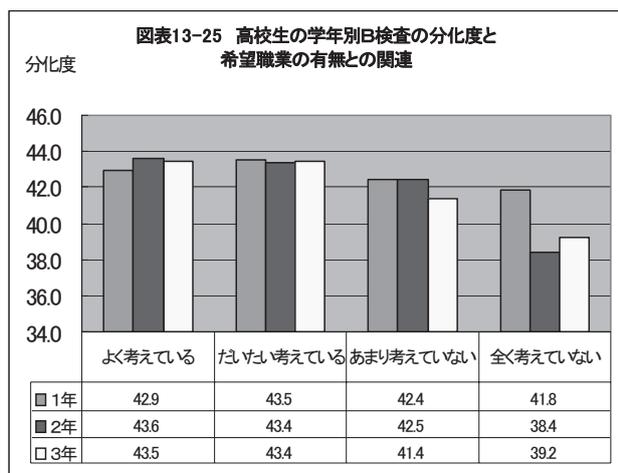


②希望職業の有無と分化度の学年による変化

中学生について希望職業の有無と各学年の関連を見ると、将来の仕事について「よく考えている」と「だいたい考えている」の回答した生徒の分化度は1年生から2年生ではほとんど変化が見られないが、2年生から3年生では大きく増加している（図表 13-23）。「あまり考えていない」と「全く考えていない」の分化度では、1年生から2年生で大きく増加している。2年生では将来に仕事を考えていない生徒に分化度が高く、3年生では逆に将来の仕事を考えている生徒に分化度が高く現れる傾向があった。男女間では女子の方が分化度は大きく基礎的志向性が明確であると考えられる（図表 13-24）。



高校生について希望職業の有無と学年間の変化を見ると、1年から3年への分化度の増加は認められないが、将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで、学年ごとに分化度は増加している（図表 13-25）。1年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも高くはないが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。高校生では将来の仕事についてよく考えているほど、基礎的志向性の分化度が高くなる傾向にある。男女間では女子の方が分化度は大きく基礎的志向性が明確であると考えられる（図表 13-26）。



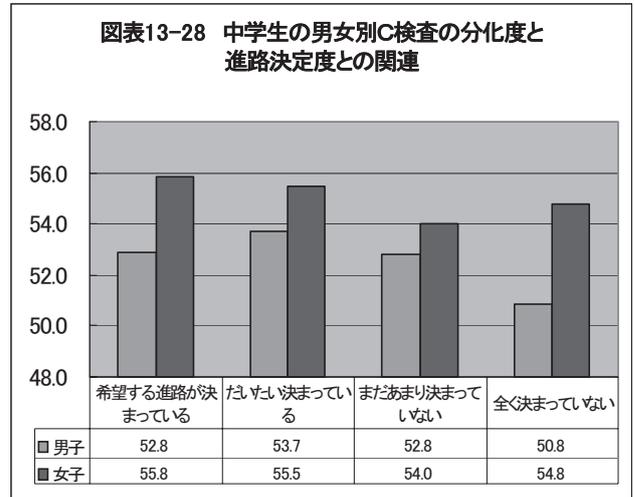
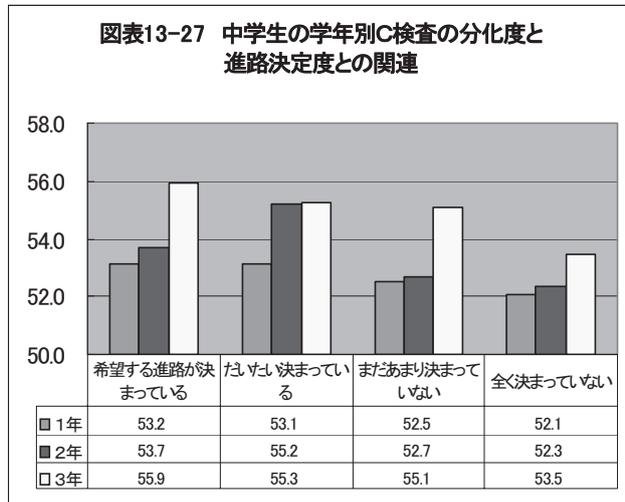
（3）進路決定度、希望職業の有無とC検査の分化度との関連

C検査の興味のある6領域の中で職業に対する自信の傾向の最も高いパーセンタイル順位と最も低いパーセンタイル順位の差を分化度として算出し、進路決定度と希望職業の有無との関連について中高別、学年別、性別から考察した。

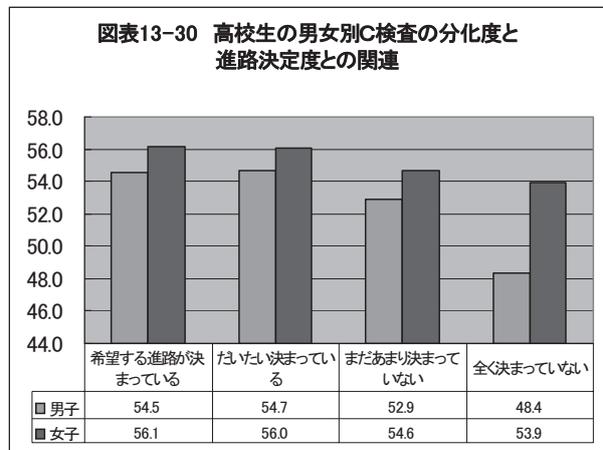
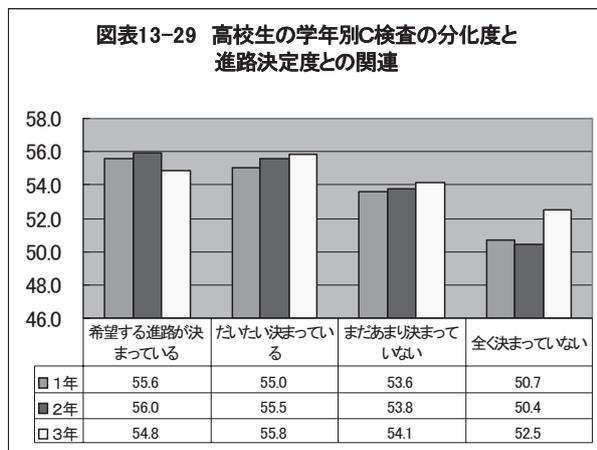
①進路決定度と分化度の学年による変化

中学生について進路決定度の学年間の変化を見ると、「全く決まっていない」から「希望する進路が決まっている」まで1年生と3年生では分化度は増加している（図表 13-27）。2年生では「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」まで分化度は増加し、「希望する進路が決まっている」が「だいたい決まっている」より低い分化度である。中学生では職業に対する自信が進路決定度とほぼ一致するが、2年生では「希望する進路が決まっている」と回答した生徒の職業に対する自信の分化度が一番高い値とならなかったのは、発達段階の特徴ととらえることができる。1年生ではまだ進路発達の段階が未成熟なため、職業に対する自信が進路決定度と一致し、2年生では発達段階が急速に進むために分化度の高い生徒が「だいたい決まっている」と回答し、将来の進路に対する現実吟味が進むほどに「希望する進路が決まっている」と回答しにくくなるのではないかと考えられる。3年生では進路意志決定が迫られ

るため、職業に対する自信の分化度と進路決定度とが一致するようになる。男女間では女子の方が分化度は大きく職業に対する自信の傾向が明確であると考えられる（図表 13-28）。

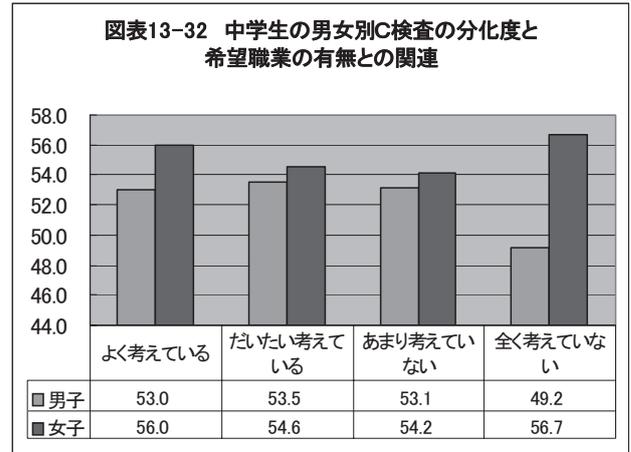
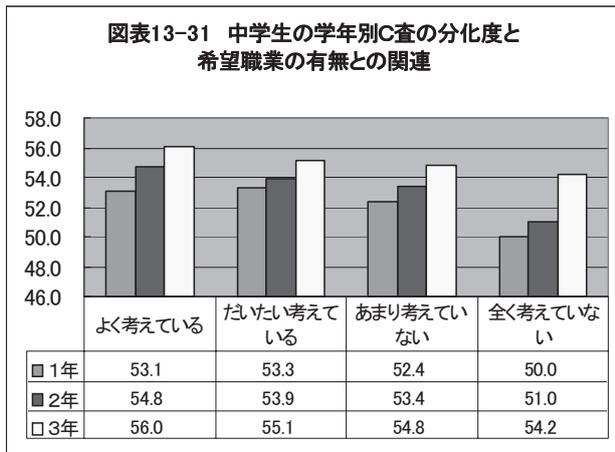


高校生について、進路決定度の学年間の変化を見ると、「全く決まっていない」から「希望する進路が決まっている」まで1年生と2年生では分化度は増加している（図表 13-29）。3年生では「全く決まっていない」から「だいたい決まっている」まで分化度は増加し、「希望する進路が決まっている」が「だいたい決まっている」より低い分化度となっている。高等学校では進路は多様となり、能力や学力が高いほど選択肢も増大する。職業領域への自信を明確に持って目標を高く設定すると将来の進路についてはだいたい決まるが、明確な決定は逆に困難となってくる。これは高校生の進路決定の現状を表している結果といえる。男女間では女子の方が分化度は大きく職業に対する自信の傾向が明確であると考えられる（図表 13-30）。

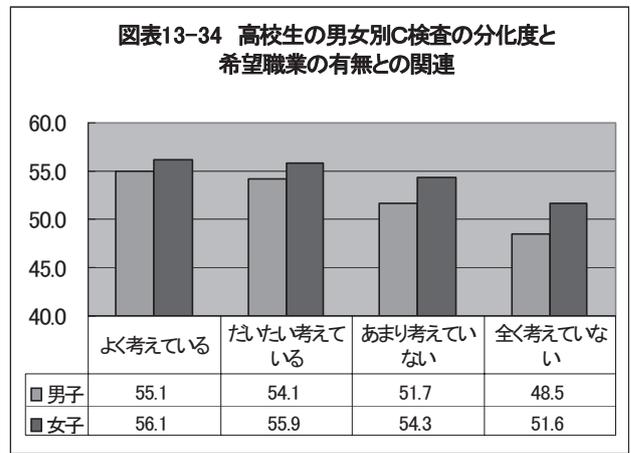
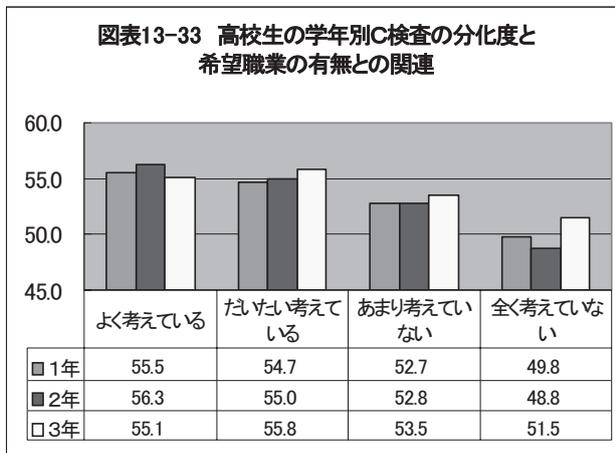


②希望職業の有無と分化度の学年による変化

中学生について希望職業の有無と各学年の関連を見ると、将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで、1年から3年へと分化度は増加している(図表 13-31)。1年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも高くはないが、その他は全て序列に従って分化度が高くなっている。中学生では将来の仕事についてよく考えているほど、職業に対する自信の分化度が高くなる傾向にある。男女間では女子の方が分化度は大きく職業に対する自信の傾向が明確であると考えられる(図表 13-32)。



高校生について希望職業の有無と学年間の変化を見ると、中学生と同様に将来の仕事について「全く考えていない」から「よく考えている」まで各学年で増加し、1年から3年へと分化度はだいたい増加する傾向にある(図表 13-33)。3年の「よく考えている」が「だいたい考えている」よりも若干低い値だが、その他は序列に従って分化度が高くなる傾向にある。男女別にみると、男女とも希望職業をよく考えているほど分化度が高い(図表 13-34)。また、女子の方が男子より、どの回答についても分化度は高くなっている。



13-4 まとめ

本章では、希望する進路についての決定度と将来、就きたい職業について考えている程度というアンケート結果と職業レディネス・テストのA、B、C検査との関連を検討した。

アンケートの素集計の結果では、高校生については、希望する進路や就きたい職業への意思決定は学年とともに上昇する傾向がみられた。しかし、中学生では2年生にいったん落ち込み、3年生で高くなるということがわかった。中学生において進路への意識が学年とともに上昇せず、2年生でいったん落ち込み、3年生で増加するという点は興味深い。また、男女では女子の方が男子よりも意思決定のレベルが高いことがわかった。

分化度との関連では、アンケートの回答で将来の進路や職業をよく考えているほど分化度が高い、という単純な関係は見られなかった。なお、4段階の回答を、「決まっている」あるいは「考えている」というレベルからみて高い方の2段階、低い方の2段階として2分して考えれば、決まっている方が決まっていない方より分化度は高い傾向はみられた。しかし、アンケートの回答を4段階でみると「進路が決まっている」あるいは「よく考えている」という一番高いレベルよりは「だいたい決まっている」、「だいたい考えている」という上から二つ目のレベルの方が、分化度が高い傾向があった。進路や職業について、早いうちから「明確に決まっている」という回答をしている生徒が果たして本当に職業発達のレベルが高いといえるのかどうか、検討しなくてはならない問題であると思われる。

また、分化度に関しては男女差が顕著であった。女子の方が男子よりも分化度が高い。ただ進路決定度や希望職業との有無との関連をみると、特に中学生に関して、男子よりも分化度との関連づけが難しい解釈となった。女子の場合、希望職業や進路決定度で「全く考えていない」、「全く決まっていない」という回答をしている生徒が最も分化度が高いという結果も見られた（図表 13-12、図表 13-16、図表 13-22、図表 13-24、図表 13-32）。ただ、全体の傾向として、進路決定度や希望職業についての意識を「決まっている」、「よく考えている」という最も高いレベルから「あまり決まっていない」、「あまり考えていない」という3番目までの選択肢でみると、2番目に高い回答で分化度が高くなっており、3番目にはそれよりやや低くなるという山形の傾向を示しており、4番目の「全く考えていない」、「全く決まっていない」という選択肢で分化度が急に高くなっていることから、4番目の選択肢を選んだ生徒の職業興味等の個々の回答傾向を検討する必要があると思われる。4番目の選択肢に関しては、これを選んでいる生徒は進路決定度に関しては全体の8～9%、希望する職業の有無に関しては4～5%程度と他の選択肢を選んでいる生徒に比べて少ない。そのため、個人の回答傾向が全体の平均値に影響を与えている可能性が高い。また、第10章の特別集計のところ記述されているが、進路決定度が低かったり、希望職業を考えていないという回答をした生徒は、職業興味の各項目に対する○の数、すなわち「やりたい」という回答が全体に少ない。そのため特定の領域での最低点が低くなり、みかけ上の分化度が高くなる可能性

もあるが、これが中学生女子で特に見られる点は、個々のデータを確認しないと明確な結論は得られない。これについては、今後、詳しく検討していくべき課題としたい。